



三和油化工業株式会社

東証スタンダード市場／名証メイン市場

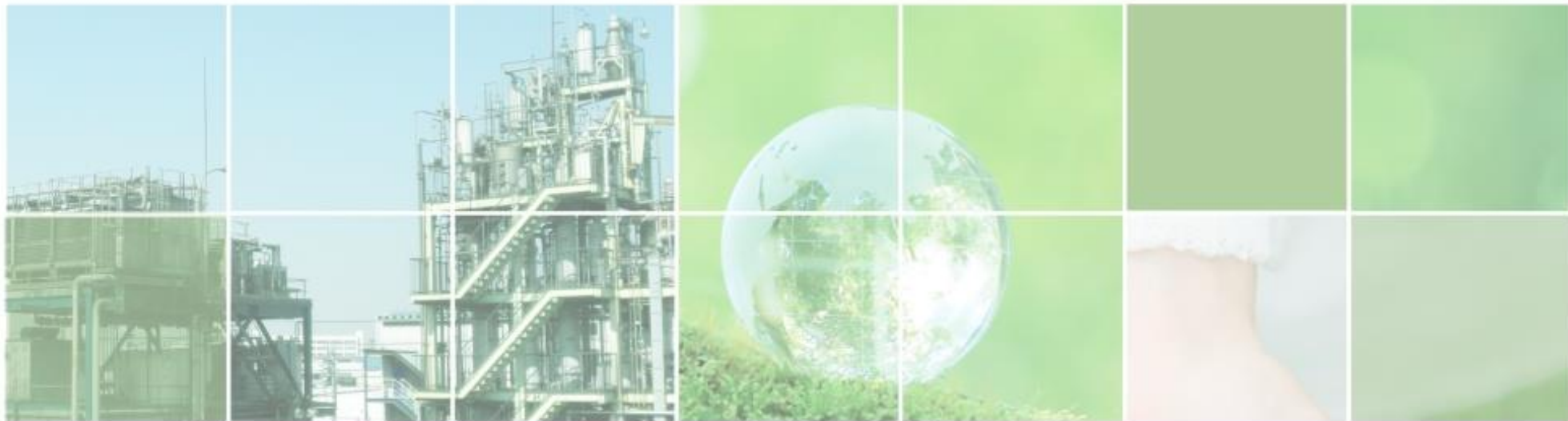
証券コード：4125

2024年3月期 決算説明資料

2024年5月14日

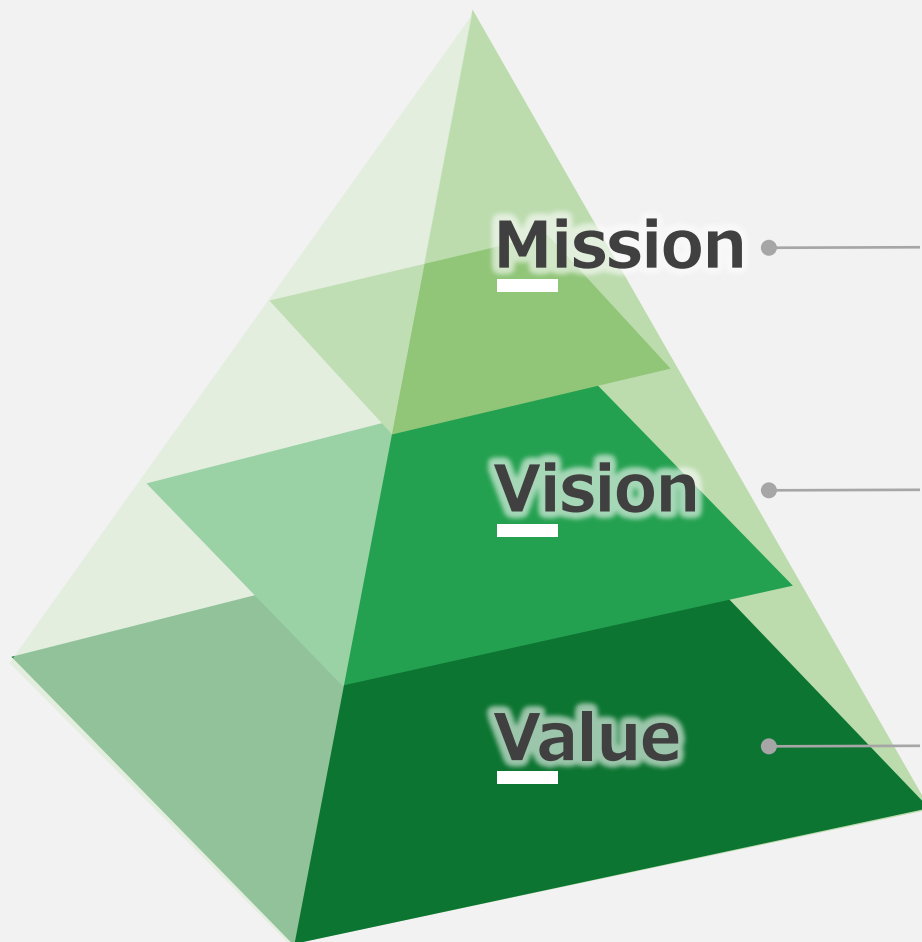


1. 会社概要	P. 3
2. 2024年3月期 決算概要	P. 12
3. 2025年3月期 業績予想	P. 23
4. 中期経営計画	P. 35



会社概要





我々は何のために存在しているのか

「環境ニーズを創造する」をテーマに事業活動を展開し、持続可能な社会の実現への貢献

我々はどこに行こうとしているのか

社会から必要とされる環境リーディングカンパニーを目指す

我々は何を大切にしているのか

社会からより信頼されるよう、「責任」・「挑戦」・「創造」を根幹に、与えられた役割を常に考え、「誠実に、確実に」やり遂げる

■ リユース・リサイクル・化学品の3つが当社の主力事業

PCB事業

4.4% (23年3月期 : 4.7%)

PCB特別措置法に基づきPCB含有廃棄物の適正処理を行うためのソリューションを提供

自動車事業

17.1% (23年3月期 : 14.0%)

自動車メーカー・自動車部品メーカーなど向けに潤滑油や金属加工油などの油剤製品、工業用洗浄剤及び自動車製造工程で使用される各種副資材を製造・販売

化学品事業

22.7% (23年3月期 : 32.7%)

有機化学品や無機化学品及びそれらを精製・加工した化学品の製造・販売及び受託加工

リユース事業

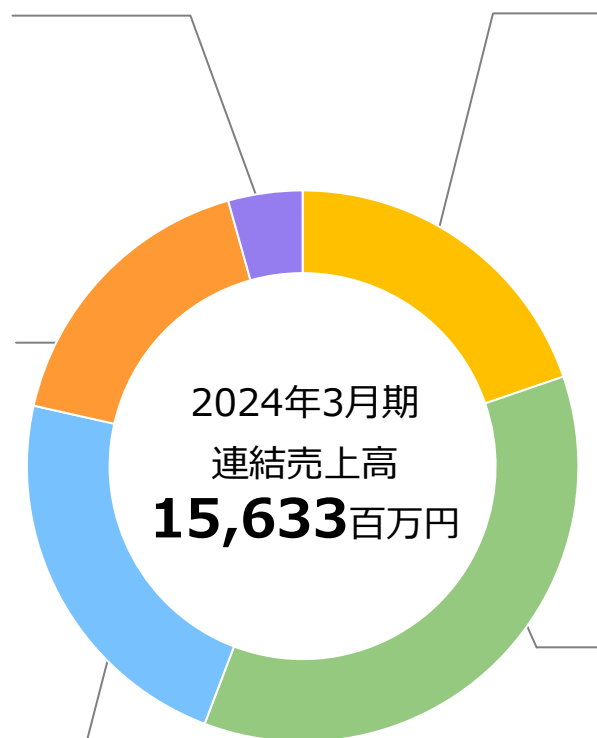
19.7% (23年3月期 : 18.1%)

使用済み廃溶剤、廃酸、有用金属等を含む産業廃棄物などを中間処分・再資源化し、元の用途や素材として再使用

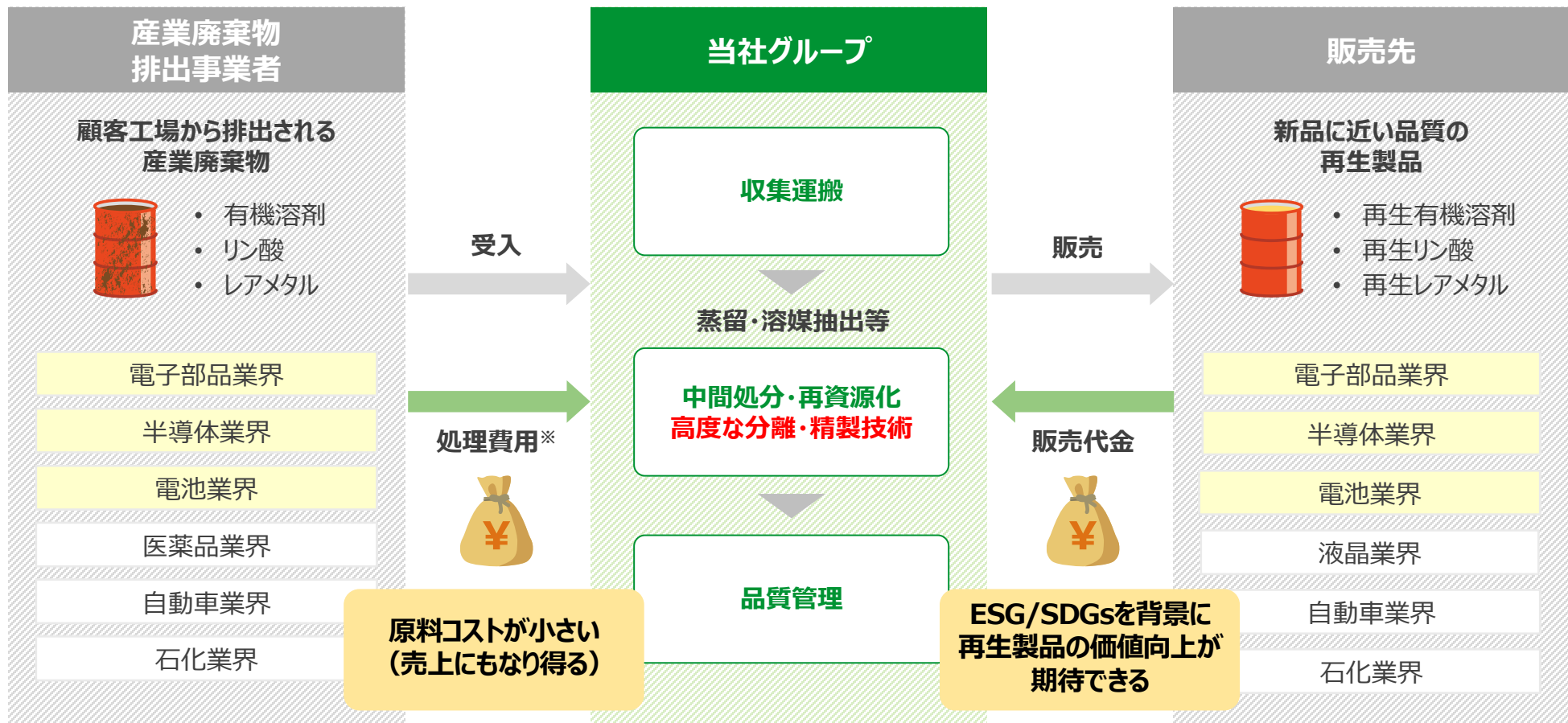
リサイクル事業

36.1% (23年3月期 : 30.5%)

使用済み廃溶剤、汚泥、廃プラスチック類などの産業廃棄物を中間処分・再資源化し、再生燃料やセメント・石灰・鉄鋼の副原料及び副資材としての2次利用を中心に再資源化



- 回収した廃棄物を**新品に近い品質の再生製品に再資源化**して資源の国内循環を促進
- 2022年後半から半導体・電子部品業界が低迷 ⇒ 2024年以降、回復基調がみられる



原料コストが小さい (売上にもなり得る)

ESG/SDGsを背景に 再生製品の価値向上が 期待できる

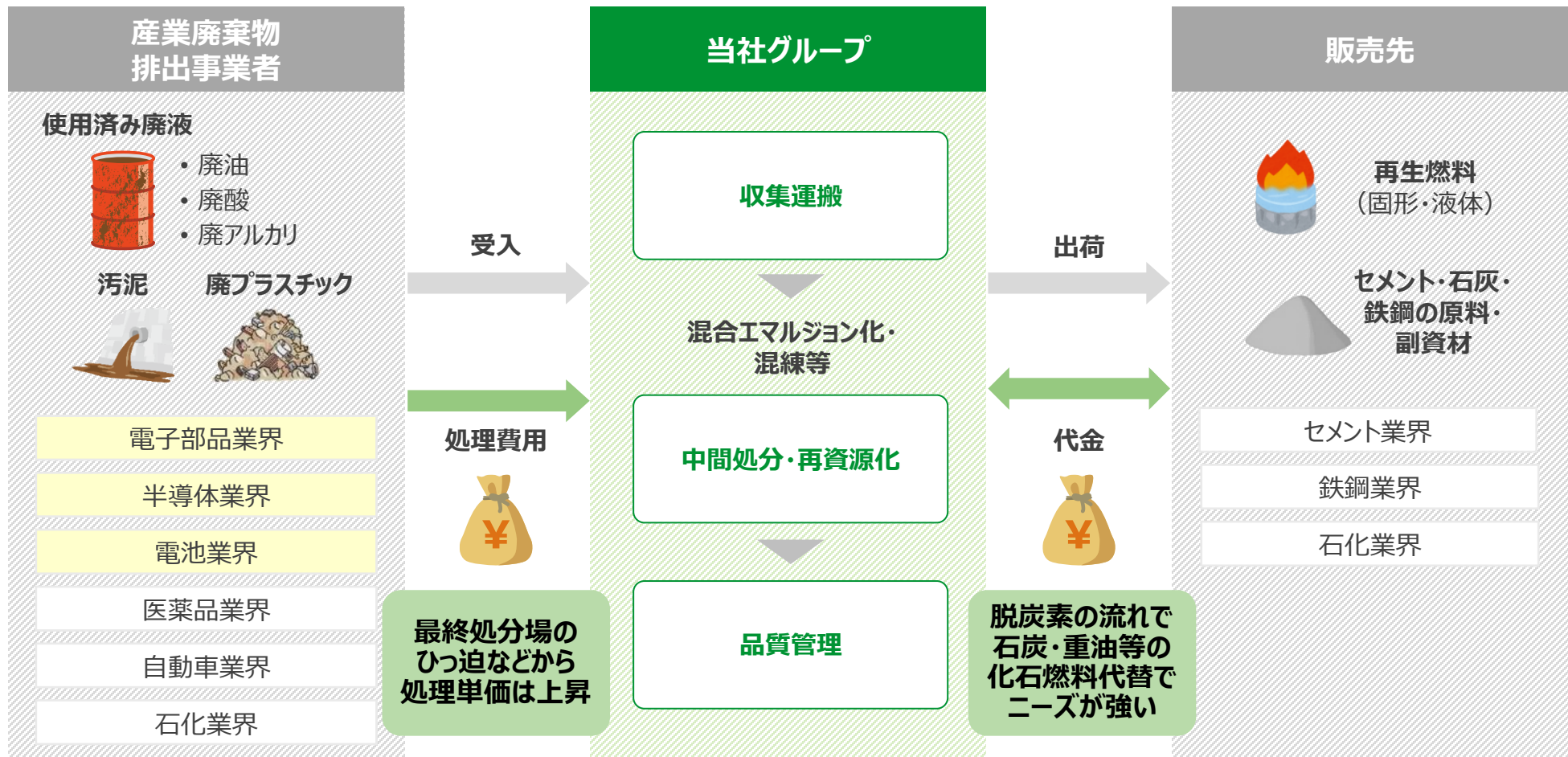
※有価物として当社グループが買取る場合もあり

排出先と販売先が 同じ場合もあり

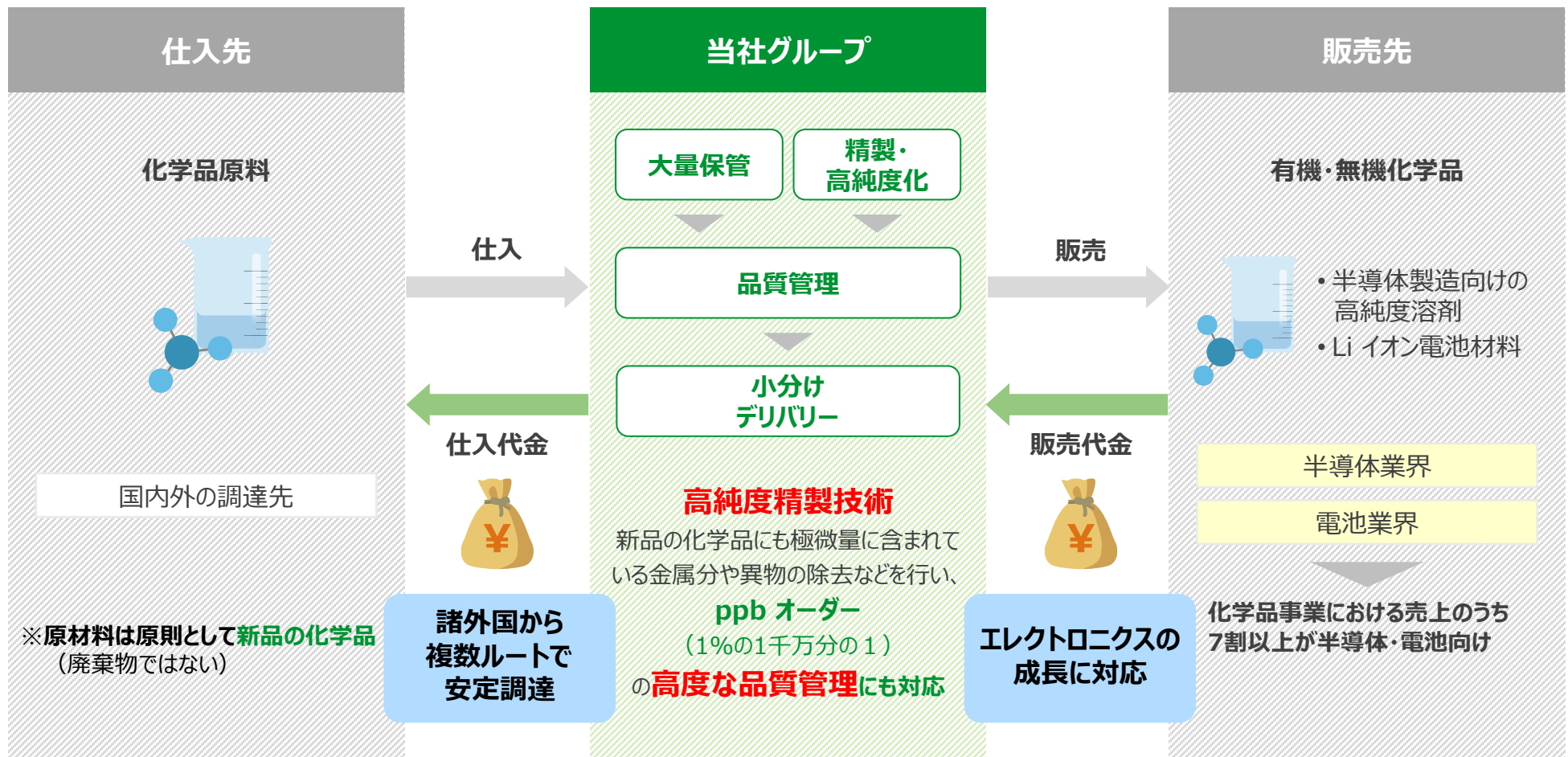
色付きは今後大きく伸びる業界



- 素材として再資源化できない産業廃棄物を**再生燃料など別用途へリサイクル**して有効利用
- **幅広い業界から安定的に廃棄物原料を収集**、東西工場拠点の稼働も徐々に増加
- セメント業界や鉄鋼業界では脱炭素の観点から**再生燃料の需要が強い**



- **電子部品・半導体・電池関連メーカー**が使用する**高品質な有機・無機化学品**を供給
- 2022年後半から継続する半導体・電子部品業界の低迷 ⇒ 一時的に製品需要は減少傾向
- **設備投資**を進め、今後の**需要増加対応**に備えた体制づくり ⇒ 2024年度より稼働開始





当社グループを取り巻く環境

- 日本は資源・エネルギーの輸入依存度が高く、サステナブルニーズが特に強い
- 半導体・電池分野は国策として伸ばしていく重要マーケット

資源制約・リスク

- 枯渇・争奪
 - 供給途絶
- ⇒ **資源の調達難**

環境制約・リスク

- 廃棄物処理
 - CO₂削減
- ⇒ **非対応は敬遠される**

半導体

- あらゆる電子機器に使用
- スマート・デジタル社会を支える基幹部品
- 高性能化が省エネ化に直結

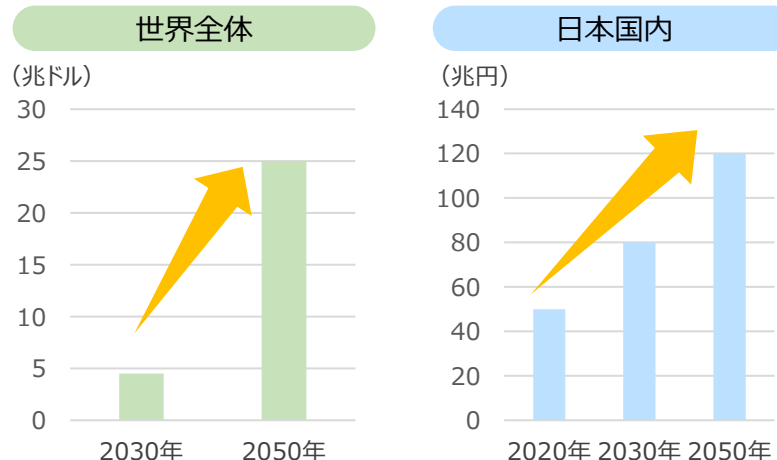
蓄電池

- モビリティ・電子機器の動力源
- エネルギーの貯蔵媒体

➡ **サーキュラーエコノミーを通じた新しい成長が期待される**

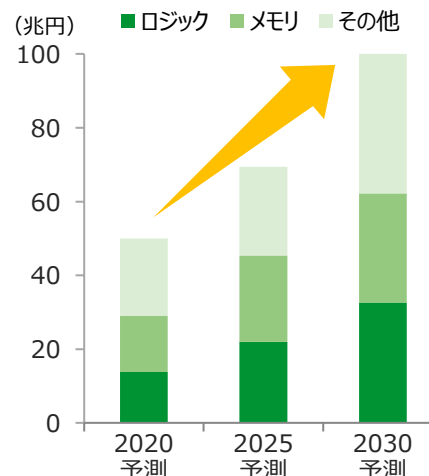
➡ **サプライチェーンの確保とさらなる成長が期待される**

サーキュラーエコノミー関連の市場規模



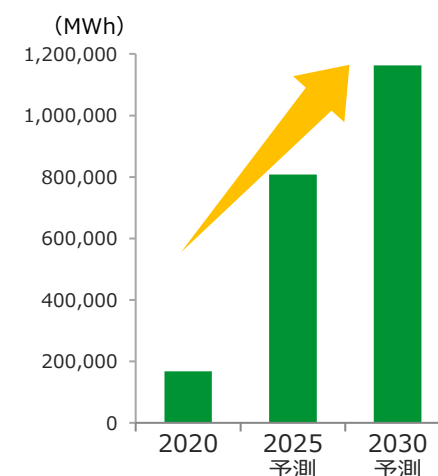
出典：経済産業省／2023年3月 成長志向型の資源自律経済戦略の概要

世界の半導体市場



出典：経済産業省「半導体戦略（概略）」
※縦軸は出荷額を表す

リチウムイオン二次電池の世界市場



出典：矢野経済研究所発表「車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査」



■ 当社は「**製造業**」として上場した **唯一の化学品リサイクルメーカー**

技術力
難易度
付加価値

- 高度な分離精製（蒸留、抽出等）
- 新品同等の再生品回収



当社のリユース事業

- 相応の **設備 × 技術 × 品質管理** が必要

⇒ **メーカーと同等の機能**

⇒ **特許や産廃許可による差別化**

参入障壁
高い

- 燃料化：化石燃料の代替
- 焼却・埋立：環境に害を与えない処分



当社のリサイクル事業

- 産廃許可やノウハウが必要だが、特別な技術が求められるわけではない

⇒ 裾野が広く、プレイヤーも比較的多い

廃棄物処理の市場、プレイヤーの多さ

※産業廃棄物処理業者（収集運搬除く処分業者）は約11,000社
その内、優良認定事業者は約800社

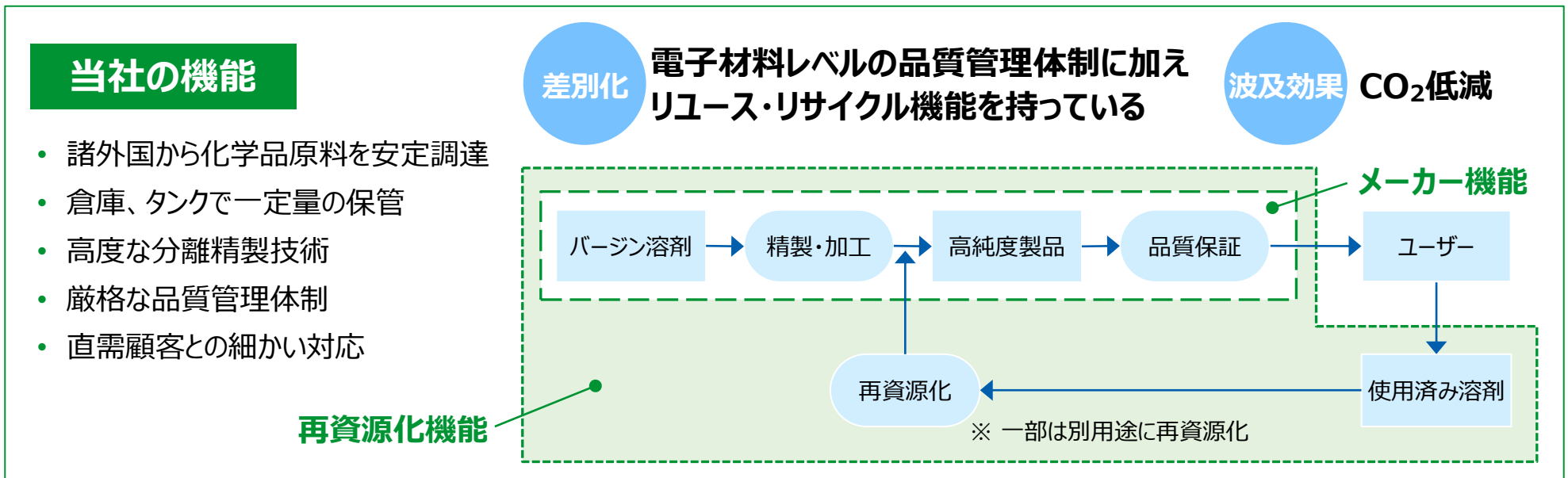


メーカー機能を併せ持つ企業は
当社のみ ⇒ **OnlyOne企業**

今後の期待値
成長性

- **半導体・電池・電子部品業界**は中長期的に成長
 - **資源需要**が拡大し、**調達リスク**や**サステナブルニーズ**がさらに高まる
- ⇒ **リユース事業を介して社会課題を解決し、事業成長を図る**

- 中長期的に成長が期待される**半導体・電池・電子部品業界がターゲット**
- **メーカー機能 × 再資源化機能** により更なる成長を描く



右肩上がりに増えていくマーケットに対し
「メーカー機能」 × 「再資源化機能」
 を伸ばすことでさらなる事業成長が期待できる

メーカー機能

化学品事業



再資源化機能

リユース・リサイクル事業



シナジー効果を最大限に発揮

※将来的にはカーボンフットプリント表示、リサイクル材使用がスタンダードとなる



2024年3月期 決算概要



2024年3月期

売上高

15,633百万円

【前年同期比】△10.0%

営業利益

1,279百万円

【前年同期比】△32.1%

営業利益率

8.2%

【前年同期比】△2.7PT

事業環境

- 米中対立、ウクライナ・ロシア情勢等の地政学リスクや為替影響により、資源・エネルギーコストは高水準
- 国内は景気回復が期待される一方、半導体・化学業界の一部では稼働回復遅れや在庫調整も見られる
- 年度後半の能登半島地震により廃棄物引取量が一時的に大幅減少

内部対応

- 産業廃棄物の有効利用や電子材料向け製品の供給に注力
- 次年度以降の半導体・電池業界の回復に向けて、設備投資を進める

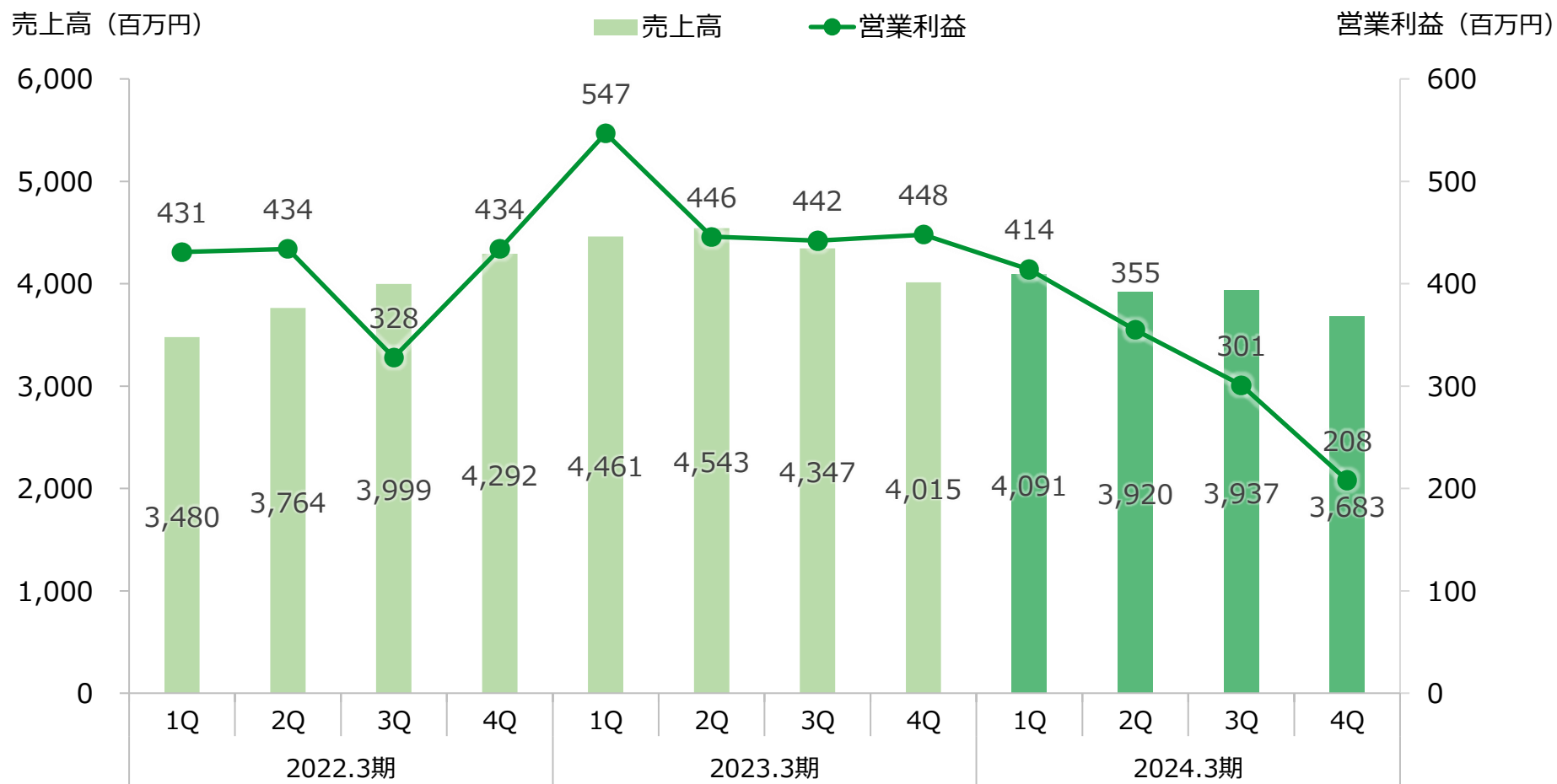
⇒ 顧客の稼働回復遅れや震災影響等、外部環境の影響により減収減益

- 半導体・化学業界の稼働回復遅れ 及び 社内コスト増により、前期比で減収減益
- 利益率の高いサイクル事業が伸長したほか、解体工事の大型案件受注により粗利率は上昇

(単位：百万円)	2023年3月期		2024年3月期							
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	前期比増減額	前期比	前回予想 2/13時点	売上高比率	前回予想比 増減額	前回予想比
売上高	17,367	100.0%	15,633	100.0%	△1,734	△10.0%	15,570	100.0%	+63	+0.4%
売上総利益	4,981	28.7%	4,627	29.6%	△353	△7.1%				
営業利益	1,885	10.9%	1,279	8.2%	△605	△32.1%	1,150	7.4%	+129	+11.3%
経常利益	1,936	11.2%	1,360	8.7%	△576	△29.7%	1,170	7.5%	+190	+16.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,325	7.6%	1,041	6.7%	△283	△21.4%	800	5.1%	+241	+30.2%
ROE	12.8%		9.0%		△3.8Pt					

※2024年3月期には、政策保有株式の一部を縮減したことによる特別利益として、投資有価証券売却益（150百万円）を含んでおります。

- 直近は能登半島地震による顧客稼働減、中東情勢緊迫化による海運停滞のマイナス影響大
- 特定建設業ライセンスによる大型解体工事など、新規受注の獲得はプラス面

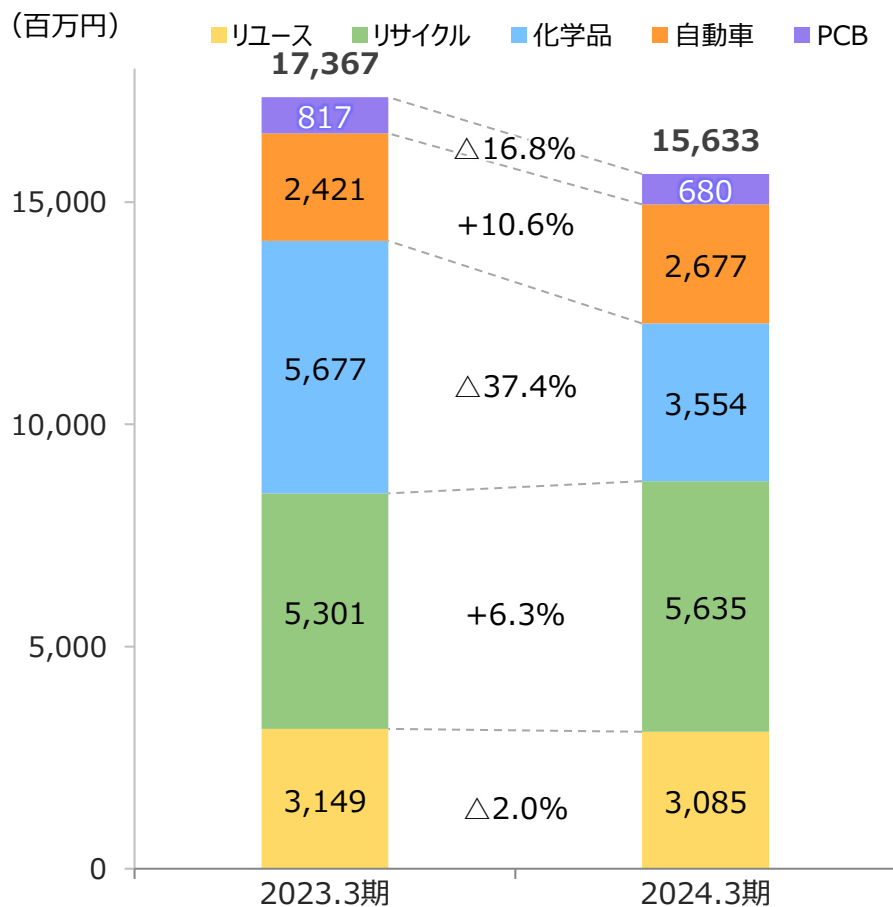


※2022.3期 3Qは上場関連費用等を計上しております

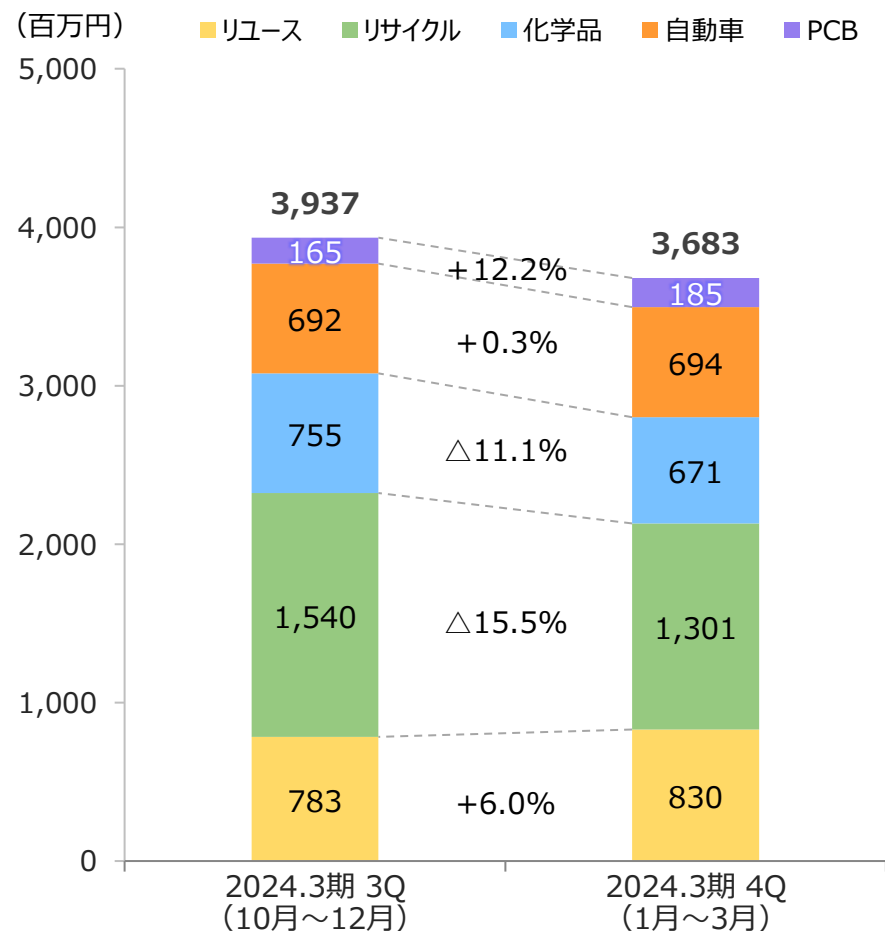
※2022.3期 1Q・2Qの数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

- 化学品事業は主要品目の単価低下と需要低迷に加え、電池向け主力設備を3Qから停止
- 順調に拡大してきたリサイクル事業も地震影響により一時的に減少、代わりにリユース事業で挽回

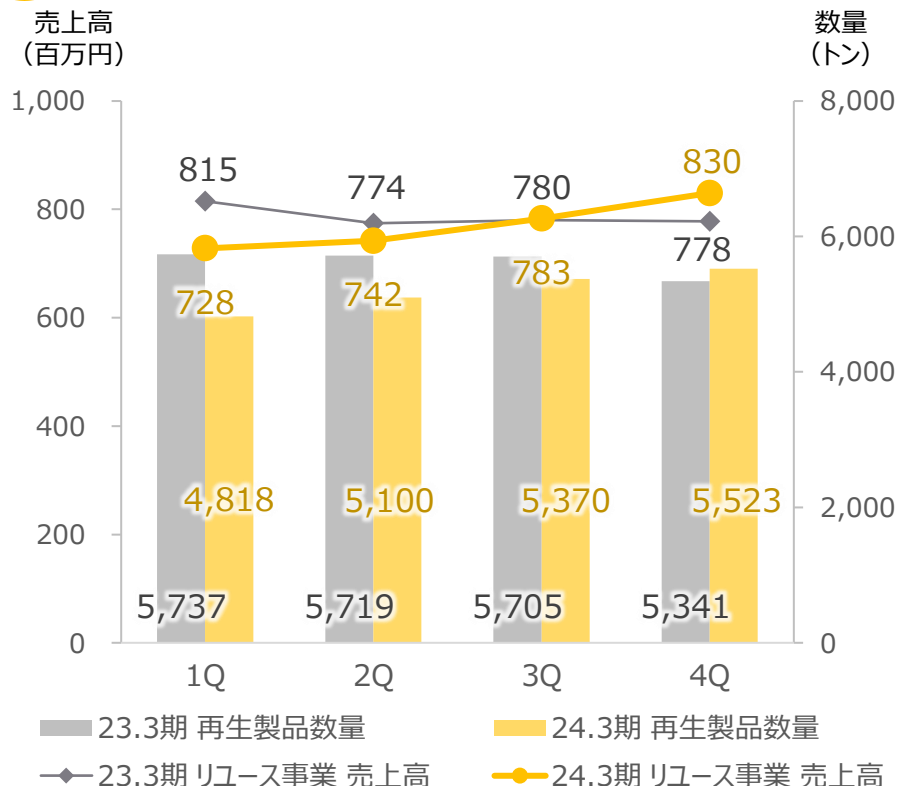
前年同期比 (YoY)



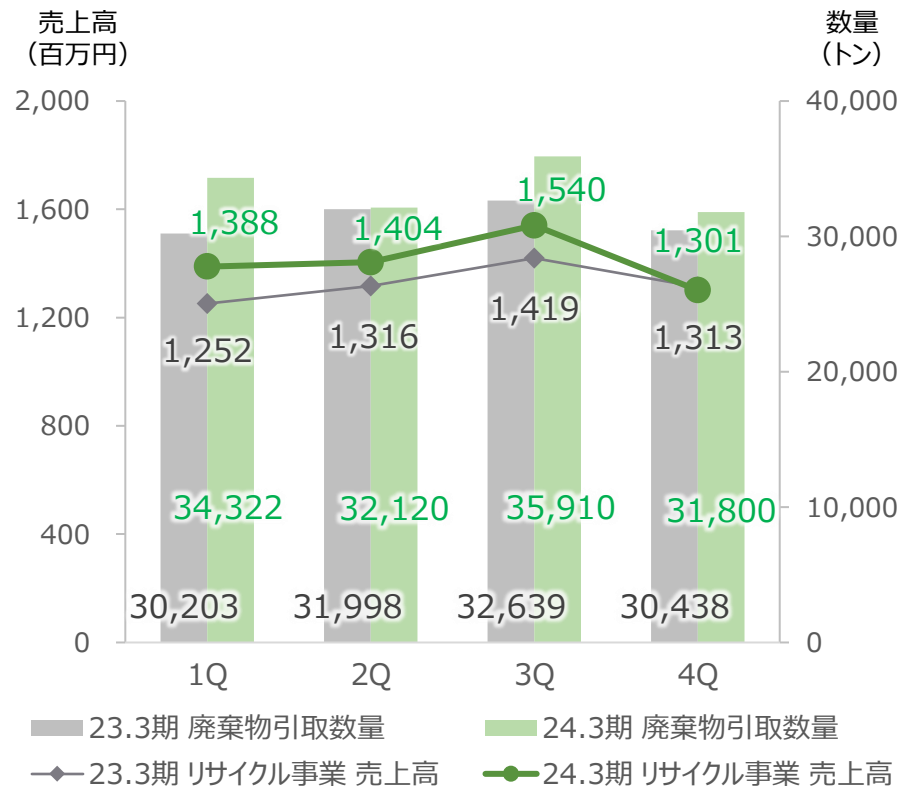
前四半期比 (QoQ)



リユース事業



リサイクル事業



リユース事業売上と再生製品販売数量

- 溶剤系はスポット案件以外でも数量が徐々に回復
- リン酸もメモリ関連顧客に稼働回復の兆し、数量増加傾向

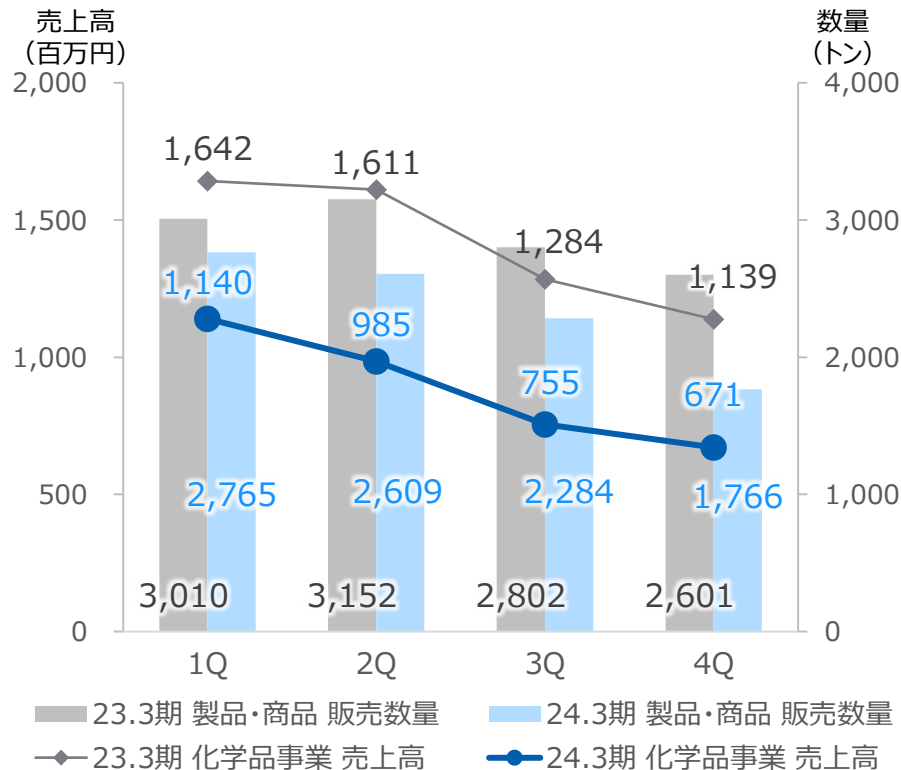
リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- 地震影響により1月は北陸顧客からの数量が激減
- 2月以降は徐々に回復し、3月末時点では概ね通常通り

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



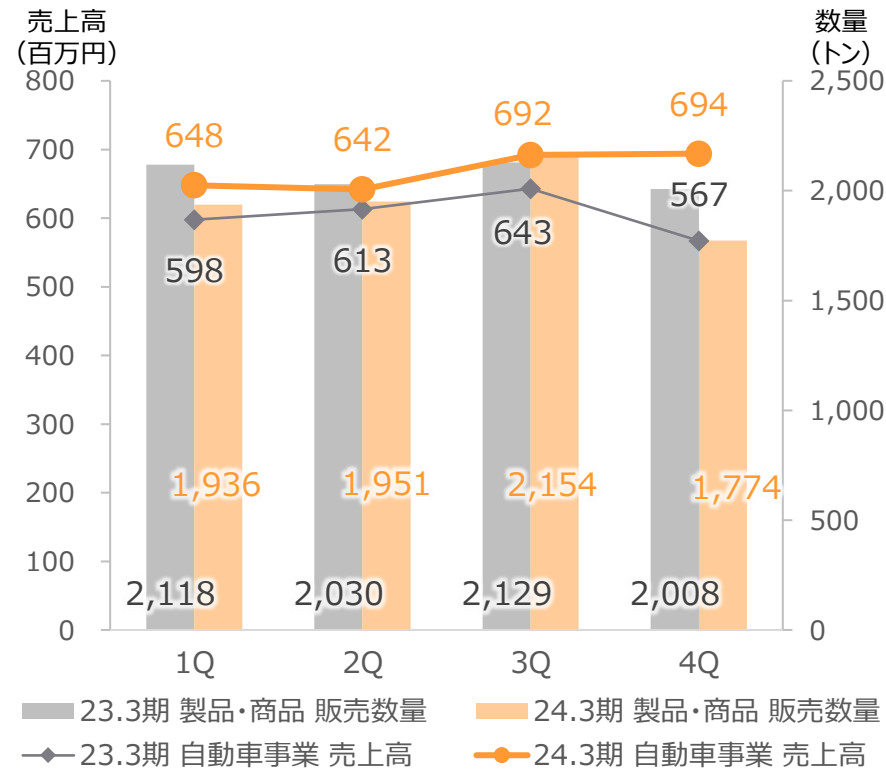
化学品事業



※ 製品：当社グループが品質保証する製造品 商品：転売品



自動車事業



■ 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- ・ 茨城の電池関連設備が停止（約280百万円の売上減）
- ・ 半導体関連の回復は弱い、中東からの原料調達遅れ

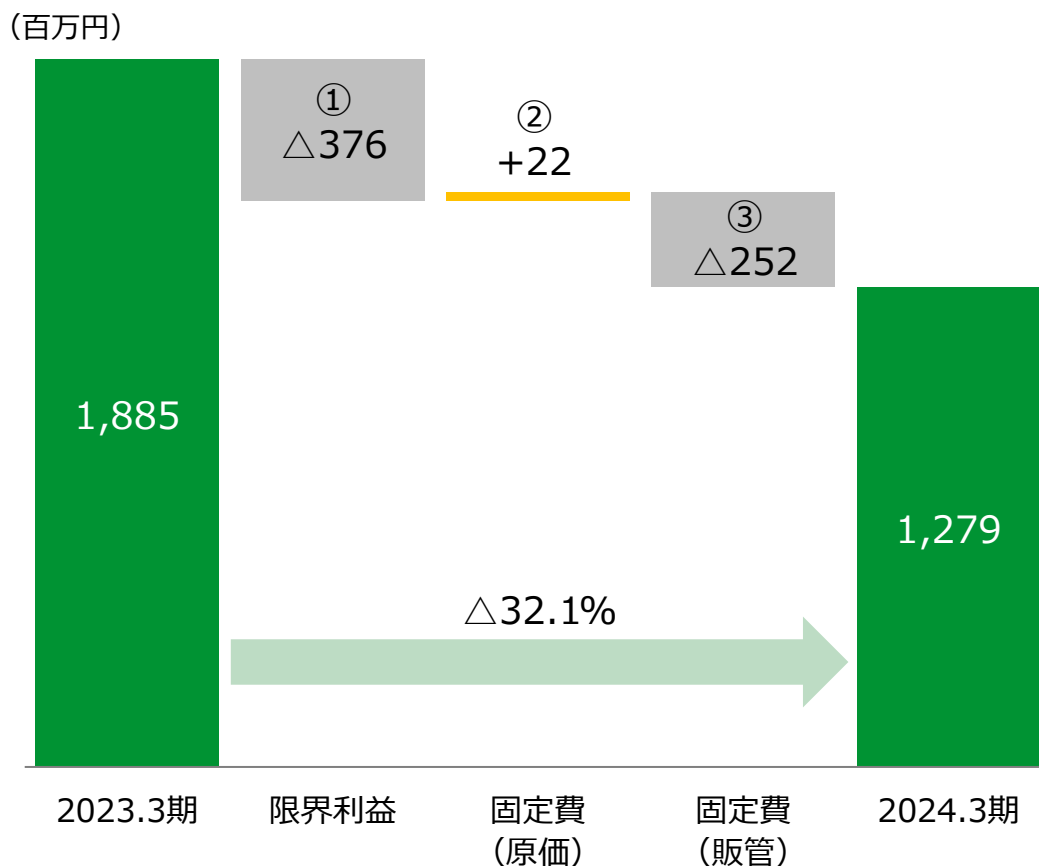
■ 自動車事業売上と製品・商品販売数量

- ・ 解体作業（特定建設業）の大型案件を受注
- ・ 自動車業界の不正影響は限定的も、油剤等販売は伸び悩み

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

営業利益増減要因分析（前期比）

- 化学品事業の売上が大きく減少、半導体・化学業界の低迷と地震影響による数量減少の影響大
- 当初の計画どおり 人員増・ベースアップ・職場改善等、**未来への投資は継続して実施**



① 限界利益

売上高

- 〈-〉【RU】 溶剤・リン酸ともに徐々に回復傾向
 - 〈+〉【RC】 取扱数量増加も、4Qに地震影響大
 - 〈-〉【化】 単価↓、半導体×、電池設備が下期停止
- 売上原価 (変動費)

- 〈+〉【化】 単価↓、半導体・電池向けの原材料減少
- 〈-〉【RC】 外部への産廃処理費増 (数量・単価)
- 〈-〉【RU】 取扱数量増で外部運送コスト増加

② 固定費 (原価)

- 〈-〉 **人員増、ベースアップ**による人件費増加
- 〈-〉 投資設備の稼働開始による減価償却費増加
- 〈+〉 電気・ガス代が減少 (前期比で単価↓)
- 〈+〉 大型の工場修繕なし

③ 固定費 (販管)

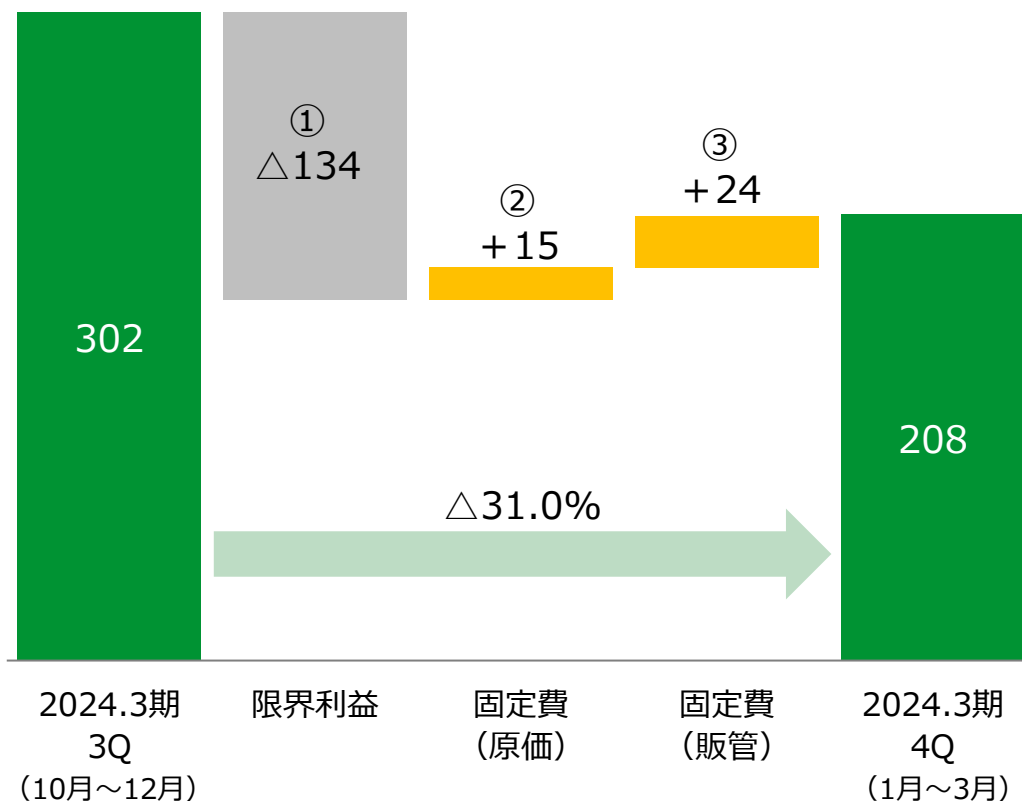
- 〈-〉 **人員増、ベースアップ**による人件費増加
- 〈-〉 **職場改善費用、DX投資、教育研修費**増加

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
 【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品

営業利益増減要因分析（前四半期比）

- サンワ南海リサイクルでの付加価値（引取／出荷の価格ギャップ）低下への改善遅れ
- 利益率が高い かつ 固定費型のリサイクル事業において、取扱数量の減少は利益影響が大きい

(百万円)



① 限界利益

売上高

〈+〉【RU】 溶剤・リン酸ともに回復傾向

〈-〉【RC】 地震影響で数量が大幅減少

〈-〉【化】 単価低下が継続、半導体向け出荷は鈍い
売上原価（変動費）

〈+〉【化】 半導体向けの原材料が減少、単価低下

〈+〉【RC】 取扱数量に連動して産廃処理費が減少
ただし、付加価値低下の改善は遅れ

② 固定費（原価）

〈-〉 年末年始の工場修繕費が4Qへ

〈+〉 工場経費等の抑制

③ 固定費（販管）

〈-〉 職場改善や教育投資は継続実施

〈+〉 業績連動の役員賞与引当を減額

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品

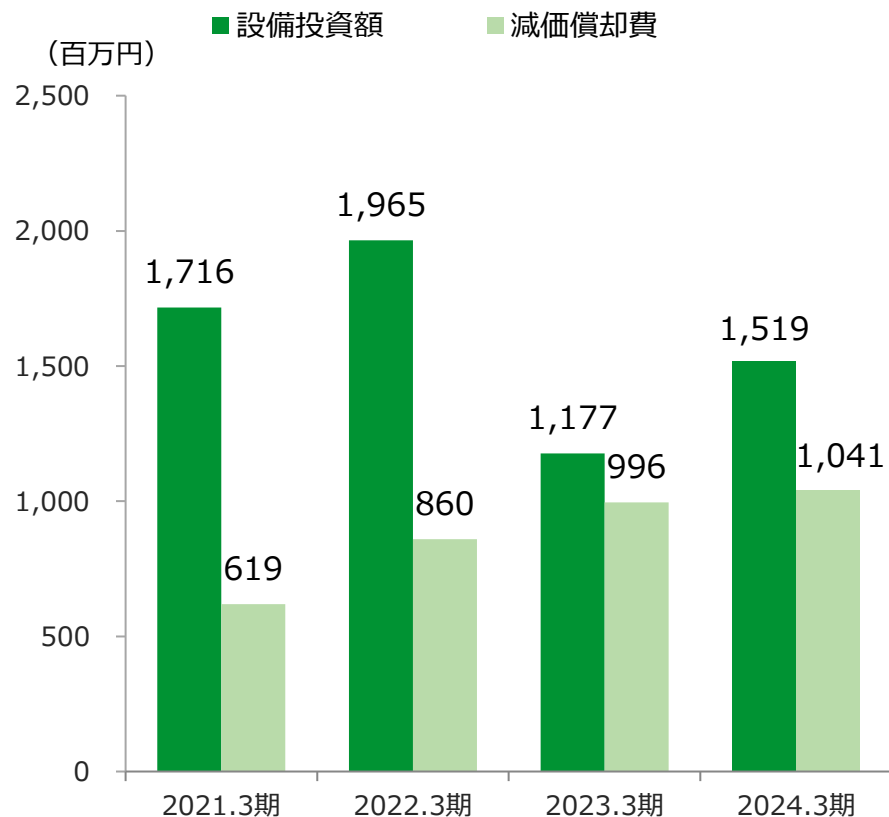
貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2023年3月期	2024年3月期	前期比 増減額	コメント
流動資産	7,506	7,076	△430	現預金・受取手形及び売掛金が減少
固定資産	13,335	14,046	+710	建設仮勘定・建物及び構築物が増加
資産合計	20,842	21,122	+280	
流動負債	4,972	4,928	△43	1年内返済予定長期借入金の減少 設備投資の未払増加
固定負債	4,836	4,114	△721	長期借入金の返済が進行
負債合計	9,808	9,043	△765	
純資産合計	11,033	12,079	+1,045	利益獲得により利益剰余金が増加
負債・純資産合計	20,842	21,122	+280	

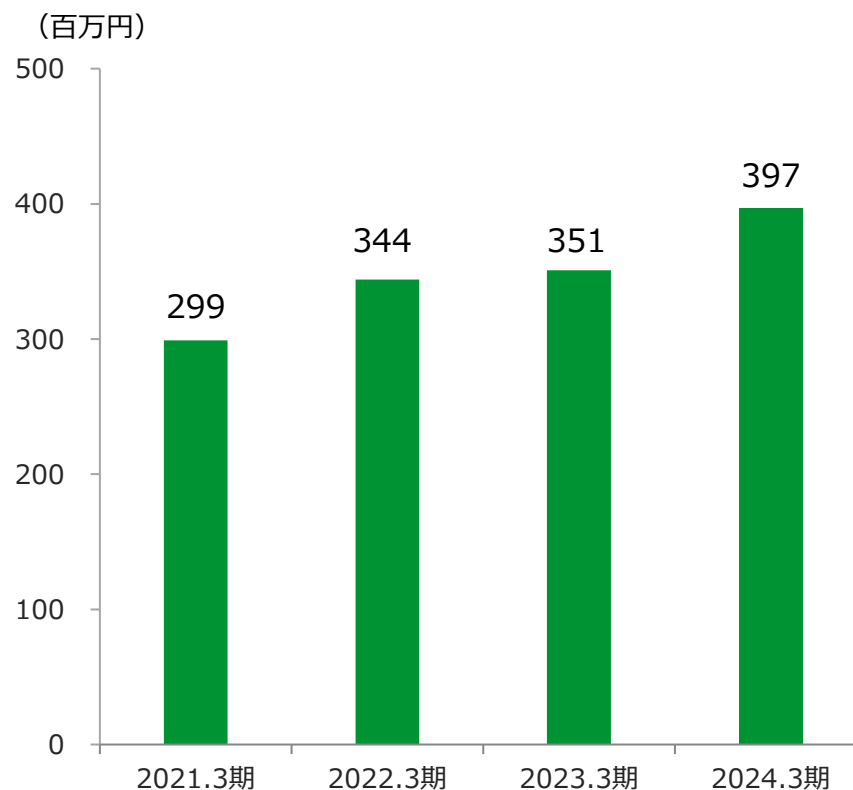
(単位：百万円)	2023年3月期	2024年3月期	前期比 増減額	コメント
営業キャッシュ・フロー	2,623	2,036	△586	税金等調整前当期純利益の減少
投資キャッシュ・フロー	△1,881	△ 1,068	+813	有形固定資産取得額の減少
財務キャッシュ・フロー	△983	△ 1,202	△218	長期借入れによる収入の減少
現金及び現金同等物の増減額	△242	△ 233	+8	
現金及び現金同等物の期末残高	2,977	2,743	△233	

- 電池関連設備の能力増強工事、危険物倉庫建設等については概ね計画どおり進捗
- 石根工場の蒸留塔増設工事は若干遅れが生じたものの、年度初めには完工予定

設備投資額・減価償却費



研究開発費



※減価償却費にはリース資産を含む



2025年3月期 業績予想



- 外部環境は徐々に回復基調であり、前期に投資した設備の稼働開始により売上増加を見込む
- 為替150円／ドル、原油80ドル／バレルを前提に、売上8.7%増収、営業利益1.6%増益の計画

(単位：百万円)	2024年3月期		2025年3月期		増減	
	実績	売上高比率	予想	売上高比率	増減額	増減比
売上高	15,633	100.0%	17,000	100.0%	+1,366	+8.7%
売上総利益	4,627	29.6%				
営業利益	1,279	8.2%	1,300	7.6%	+20	+1.6%
経常利益	1,360	8.7%	1,330	7.8%	△30	△2.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,041	6.7%	950	5.6%	△91	△8.8%

※2024年3月期には、政策保有株式の一部を縮減したことによる特別利益として、投資有価証券売却益（150百万円）を含んでおります。

- 自動車事業に含まれる解体・清掃等の作業及びPCB事業を統合しエンジニアリング事業に名称変更
- 今後見込まれる化学プラント改廃ニーズをとらえ、成長の原動力となる事業に育成することを目指す

旧事業分類（～2023年度）

事業分類	主要品目
自動車	商品
	製品
PCB	解体・作業代
	PCB含有廃棄物処理等

新事業分類（2024年度～）

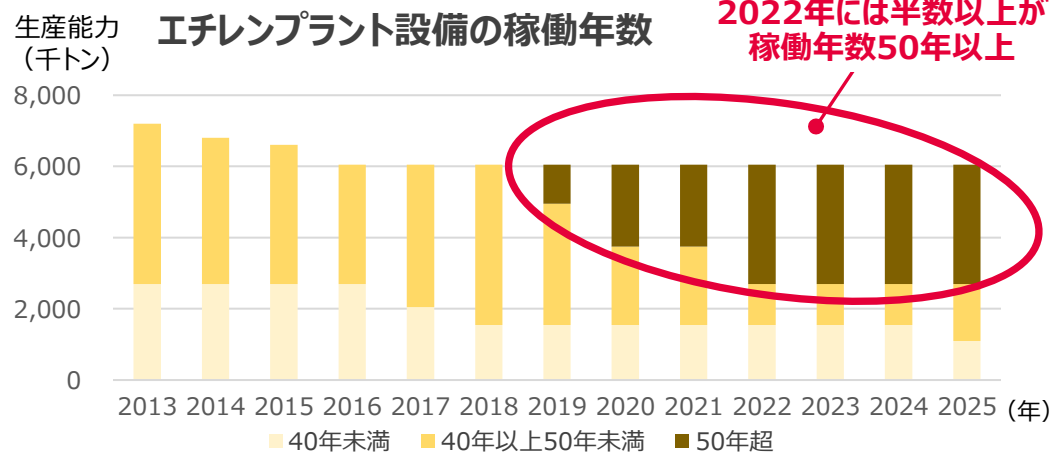
事業分類	主要品目
自動車	商品
エンジニアリング	製品
	解体・作業代
	PCB含有廃棄物処理等

- 高度経済成長期に建設されたプラントの老朽化及び業界再編により工場設備の統廃合が促進（グラフ参照）
- 中国での石化プラント新增設によりアジア全体で石油化学品が供給過多となり、日本のエチレンプラントの稼働率は低下見込
- 日本の二酸化炭素排出量の約15%を占める化学工業に対して脱炭素対応が要求されている

今後増加が見込まれる
プラント解体ニーズの取込み

解体、作業および廃棄物の
有効利用について案件を獲得

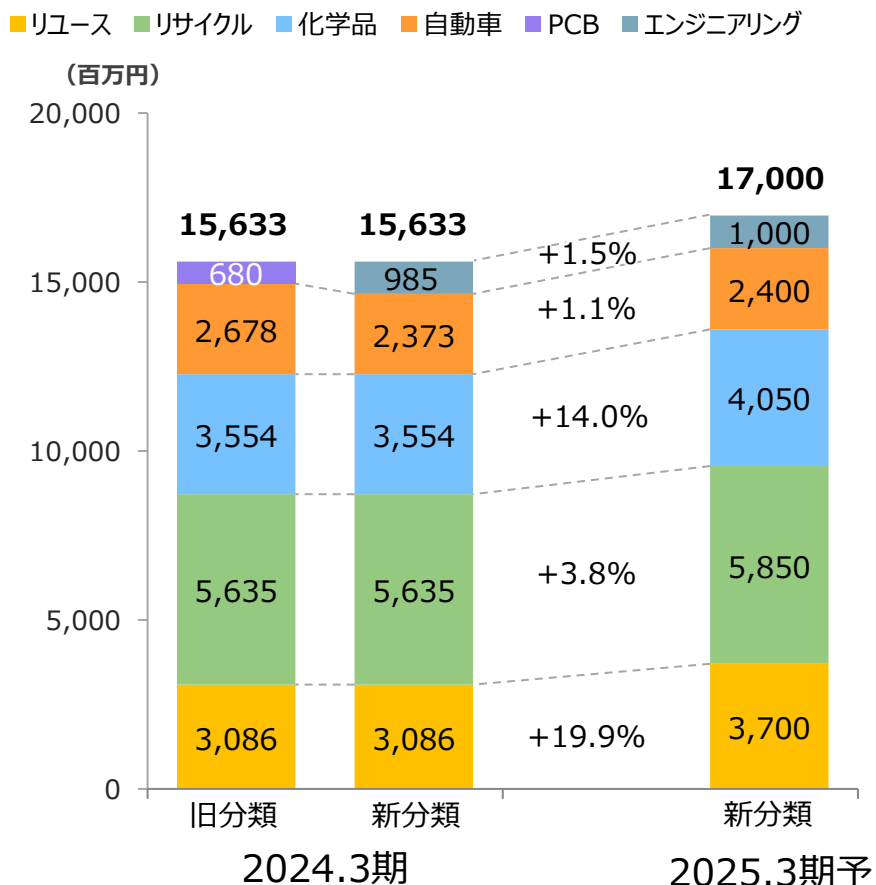
事業の成長



出典：重化学工業通信社「日本の石油化学工業50年データ集」

- 外部環境は徐々に回復基調を見込む、特に半導体・電池・電子部品等の成長分野が主要ターゲット
- リユース・リサイクル・化学品事業に加え、新たなエンジニアリング事業とのシナジー効果を発揮

事業種別売上高予想



事業種別概況



リユース事業

- ・ MLCC関係がモビリティ向けで増加見通し、溶剤再生が活性化
- ・ メモリ関連顧客の稼働回復により、リン酸数量が増加



リサイクル事業

- ・ 地震の影響からは概ね回復、定常稼働へ向かう
- ・ 化石燃料の代替として廃棄物由来エネルギーを供給し、脱炭素貢献



化学品事業

- ・ 中国を始めBEV市況は不透明だが、当社バインダー設備が稼働再開
- ・ 半導体は下期に向けて回復見込む、当社新設備も下期より本格稼働



自動車事業

- ・ 顧客工場の稼働は徐々に回復することを期待
- ・ 新しい機能材開発、顧客との関係性強化による他事業とのシナジー



エンジニアリング事業

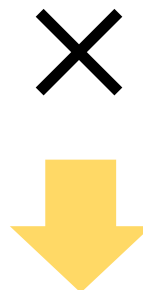
- ・ 2027年の処理期限に向けてPCB案件は縮小見込み
- ・ 特定建設業ライセンスにより、大型解体案件の受注を拡大

① 半導体業界における当社の戦略

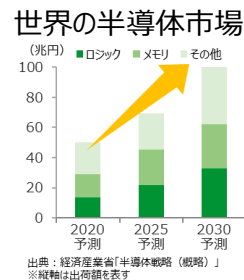
- 中長期的な成長が見込まれる半導体関連メーカーに対して、**ファインケミカル品の製造販売から使用済化学品の再資源化まで提案**しサステナブルな事業成長を実現

当社グループの強み (Strength)

- 半導体等で使われる高純度溶剤の要求品質に応えることができる**厳格な品質管理体制**
(ppbオーダーに対応可能) ※ 1ppb=1%の1千万分の1
- 副資材の販売と合わせて、使用済の溶剤・酸・アルカリの**最適な処分方法の提案**が可能
- 国内に数社しかないファインケミカル品と再生品の両方を製造できるメーカー



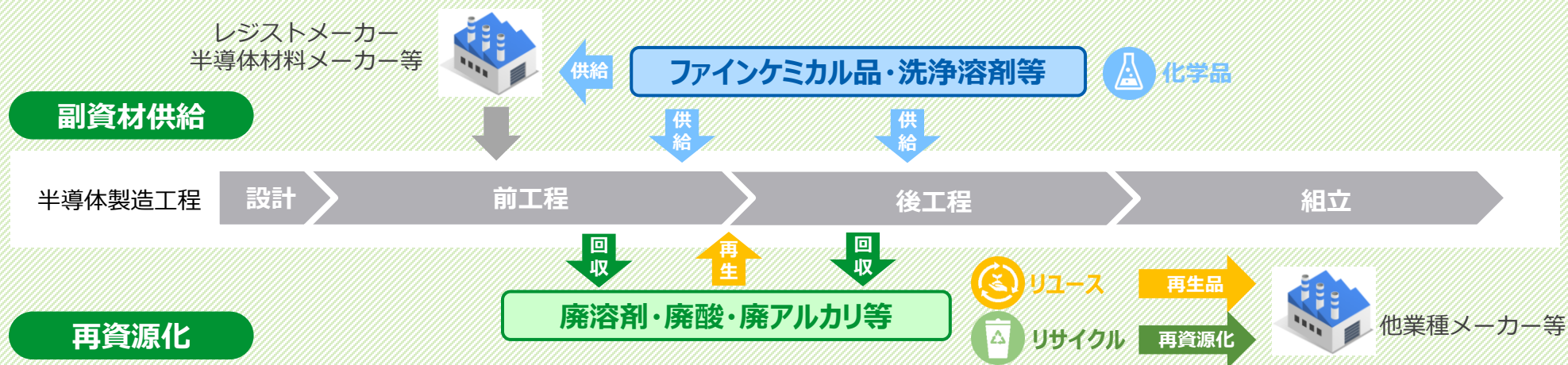
事業機会 (Opportunity)



- 世界の半導体市場の見通しは中長期的には明るく、100兆円規模まで拡大すると予測される
- 日本の半導体業界も世界の半導体市場における主要プレイヤーとなると予測される

強みを機会に対して活かす戦略

- 前・後工程で使用される**薬液の供給**と**使用済化学品の再資源化**

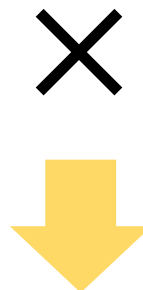


② 電池業界における当社の戦略

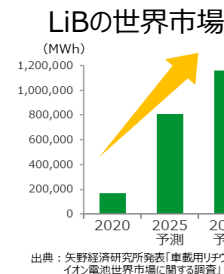
- 市場規模の拡大が見込まれるリチウムイオン二次電池関連メーカーに対して、幅広いモノの取扱いと製造販売から再資源化まで提案することによりワンストップサービスを提供

当社グループの強み (Strength)

- 化学品を高レベルで分離・精製する技術力
- 低水分下で複数の化学品を均一に混合する技術力
- 国内外の複数ルートから有機溶剤を安定的に調達し、当社倉庫・タンクや外部倉庫にて一定量保管
- 自動車メーカーとの強固な関係性



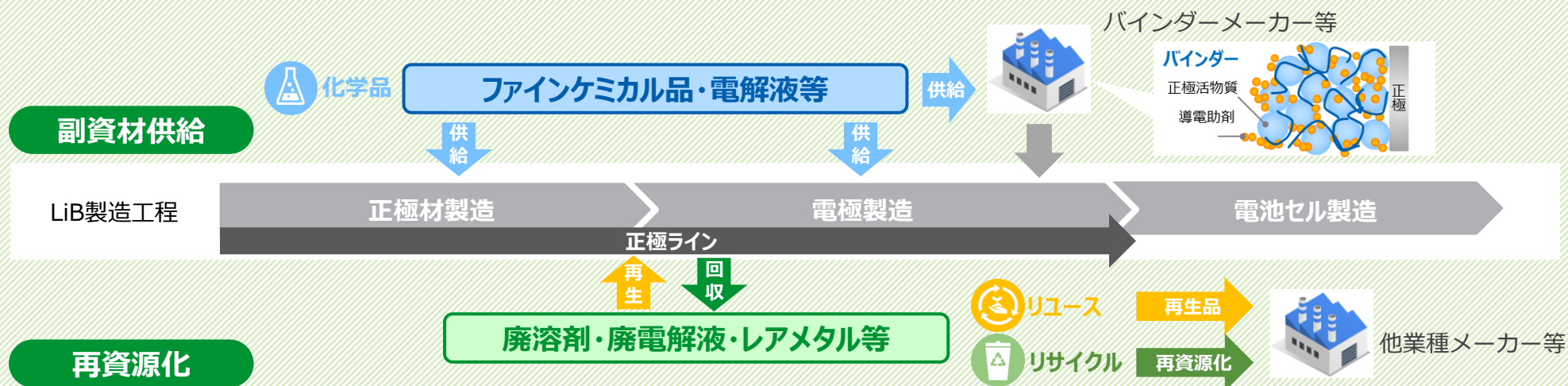
事業機会 (Opportunity)



- 国内外の電池市場の見通しは、車載用はじめ高い成長率で推移すると予測される
- 蓄電池等は特定重要物資に指定されており、国策として伸ばしていく重要マーケットとされている

強みを機会に対して活かす戦略

- ファインケミカル品や機能性材料の供給と使用済化学品の再資源化

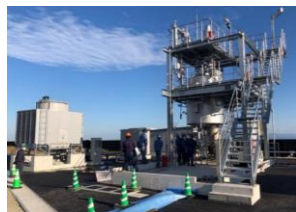


③ 電子部品業界における当社の戦略

- 成長が見込まれる電子部品メーカーに対して、ファインケミカル品・再生品の製造販売やアライアンス先との協業等による受託再生により**資源循環ニーズ**に応える

当社グループの強み (Strength)

- 高い**品質要求**に応えることができる**管理体制**
- 多様なニーズに対応でき、メーカーからの**直需が多い**
- アライアンス体制を活かし、**ユーザーの近くで再資源化**



▲ アライアンス先

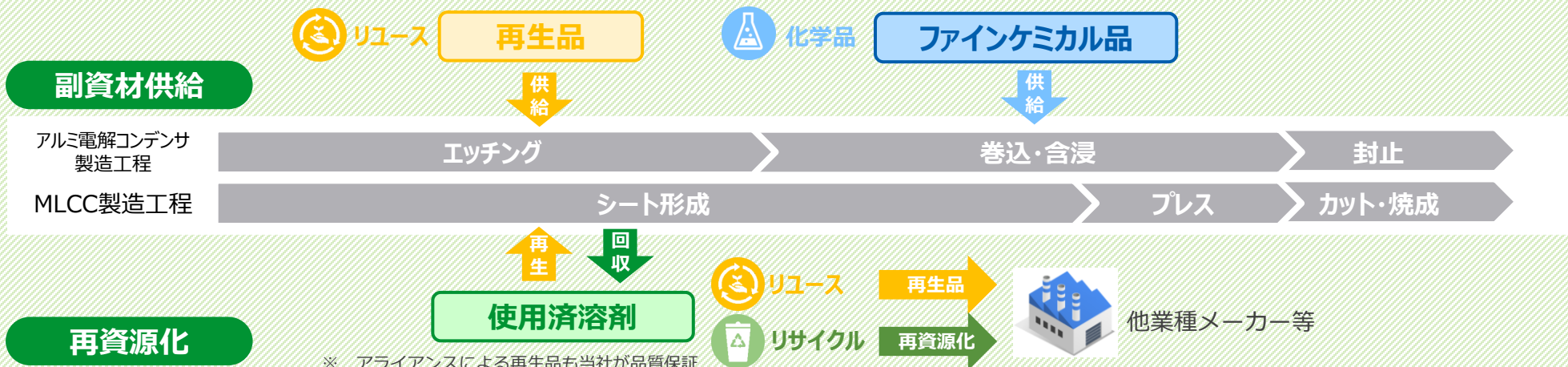


事業機会 (Opportunity)

- DX化が推進される社会において、電子部品の需要は一層高まると予測される
- 積層セラミックコンデンサ (MLCC)、アルミ電解コンデンサは、2030年にかけてCAGR約5%の成長が見込まれている
- 日本のコンデンサメーカーは世界の主要プレイヤーである

強みを機会に対して活かす戦略

- **ファインケミカル品・再生品の供給と使用済化学品の再資源化**



※ アライアンスによる再生品も当社が品質保証

④ エンジニアリング事業における当社の戦略

- PCB事業で培った作業・解体ノウハウを活かし、工場改廃ニーズを取込みエンジニアリング事業を拡大
- 解体工事により発生する残液や金属を回収し、リユース・リサイクル事業により再資源化

当社グループの強み (Strength)

- 産廃処理・収運および特定建設業の許可を有し、清掃・解体・廃棄物処理等を一手に担うことができる
- 危険物や強酸等、化学物質取扱いのプロとして安全かつ最適な処分方法を提案
- 石油関連企業、化学関連企業との強固な関係性



▲産業廃棄物の収運



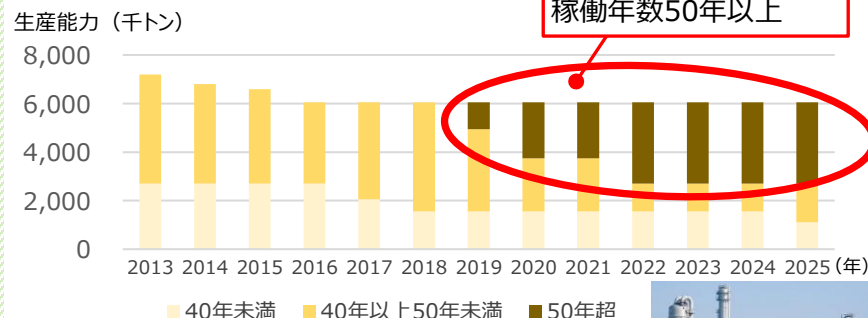
▲清掃作業の様子



事業機会 (Opportunity)

- 高度経済成長期に建設されたプラントが改廃される時期
- 業界再編により国内エチレンプラントの統廃合が加速

エチレンプラント設備の稼働年数



出典：重化学工業通信社

「日本の石油化学工業50年データ集」

エチレンプラント▶



強みを機会に対して活かす戦略

- 残液採取・処理から設備撤去までワンストップサービスを提供
撤去する設備内に残った残液等を回収し、リユース・リサイクルとのシナジー効果による再資源化



エンジニアリング



リユース



リサイクル

タンク解体の様子▶



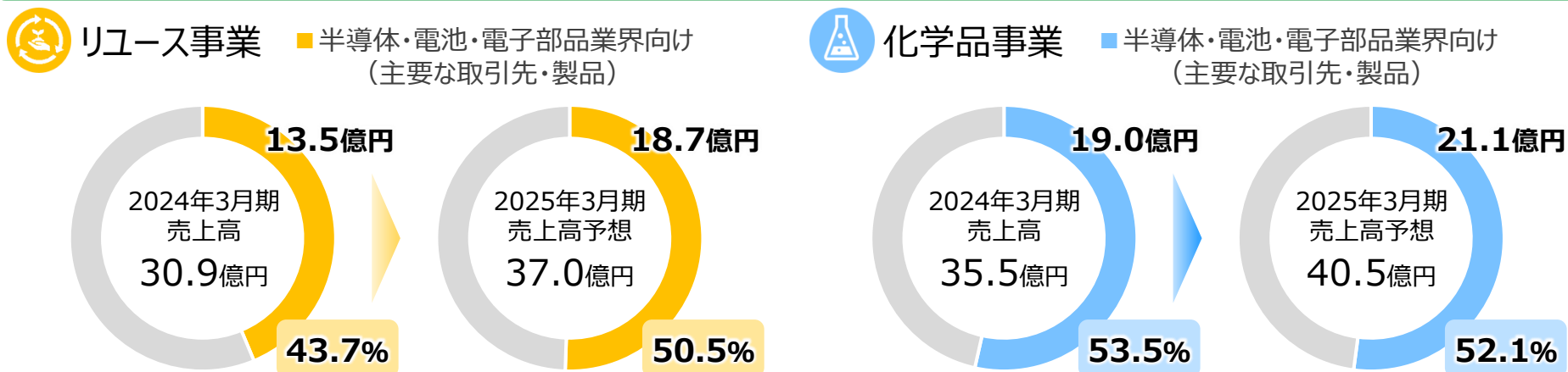
- 半導体・電池・電子部品業界向け売上高および解体・清掃作業等の売上高は増収計画
- リユース・化学品事業においては半導体・電池・電子部品業界向け製品売上高が約半数を占める

◆ 成長分野における売上見込（主要な取引先・製品の集計）

取引種別	当社事業分類	2024年3月期	2025年3月期			
				売上増見込額	前年売上比	前年数量比
① 半導体	リユース・化学品	6.9億円	7.2億円	0.3億円	104%	111%
② 電池		11.5億円	13.9億円	2.4億円	121%	169%
③ 電子部品		4.6億円	8.1億円	3.5億円	176%	187%
①-③ 引取廃棄物の再資源化分	リユース・リサイクル	14.7億円	16.7億円	2.0億円	114%	113%
④ 解体・清掃作業等	エンジニアリング	3.0億円	4.9億円	1.9億円	163%	-
①-④ 上記成長分野の合計		40.7億円	50.8億円	10.1億円	125%	

2024年度増収計画14億円のうち10億円を上記成長分野の増収分で見込む

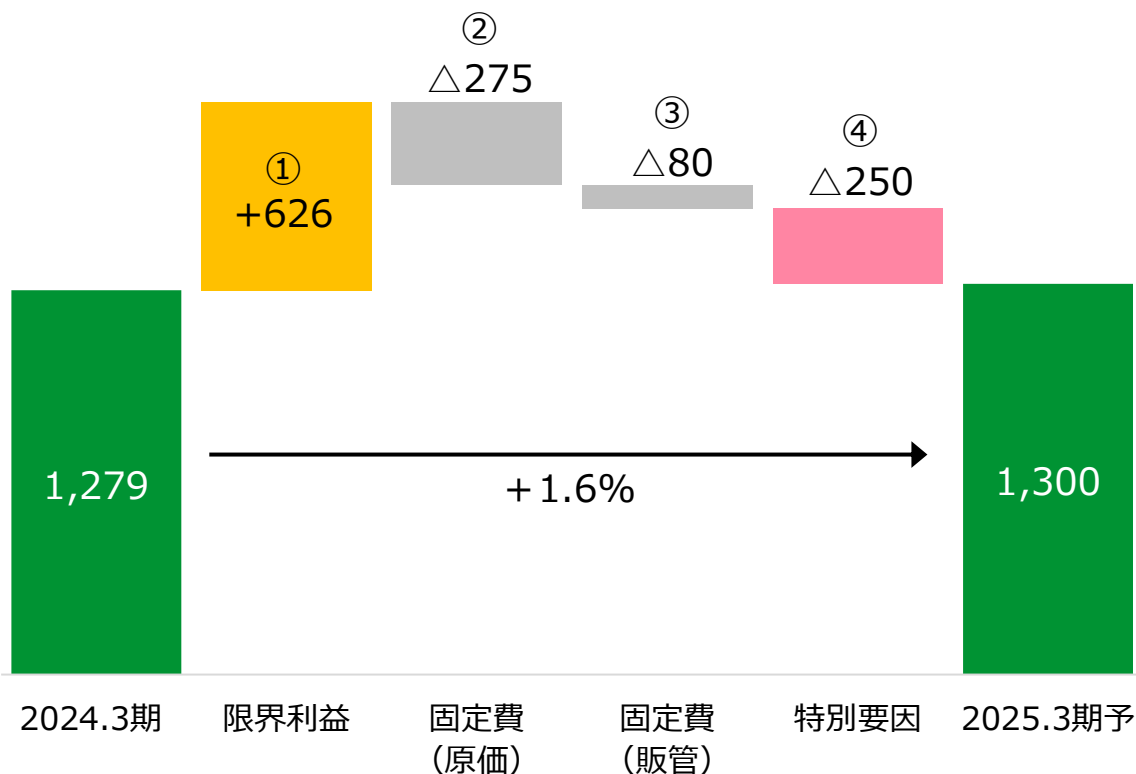
リユース・化学品事業におけるエレクトロニクス業界向け売上高



営業利益増減要因分析（前期比）

- リユース・化学品事業を中心に売上増加となるが、固定費負担が重く利益増加は限定的
- 退職給付会計の原則法移行および従業員給与のベースアップにより固定費が大幅増加

(百万円)



① 限界利益

売上高

〈+〉【RU】【RC】【化】 半導体・電池・電子部品
業界向け中心に増収計画

売上原価 (変動費)

〈-〉【RU】 アライアンス強化により外注費が増加
 〈-〉【化】 製品販売増加により原材料費増加
 〈-〉 外注運賃コスト増加

② 固定費 (原価)

〈-〉 設備投資に伴う減価償却費増加

③ 固定費 (販管)

〈-〉 ベースアップによる人件増加
 〈-〉 業務効率化 (DX含む) のための投資

④ 特別要因 (2025.3期のみ発生)

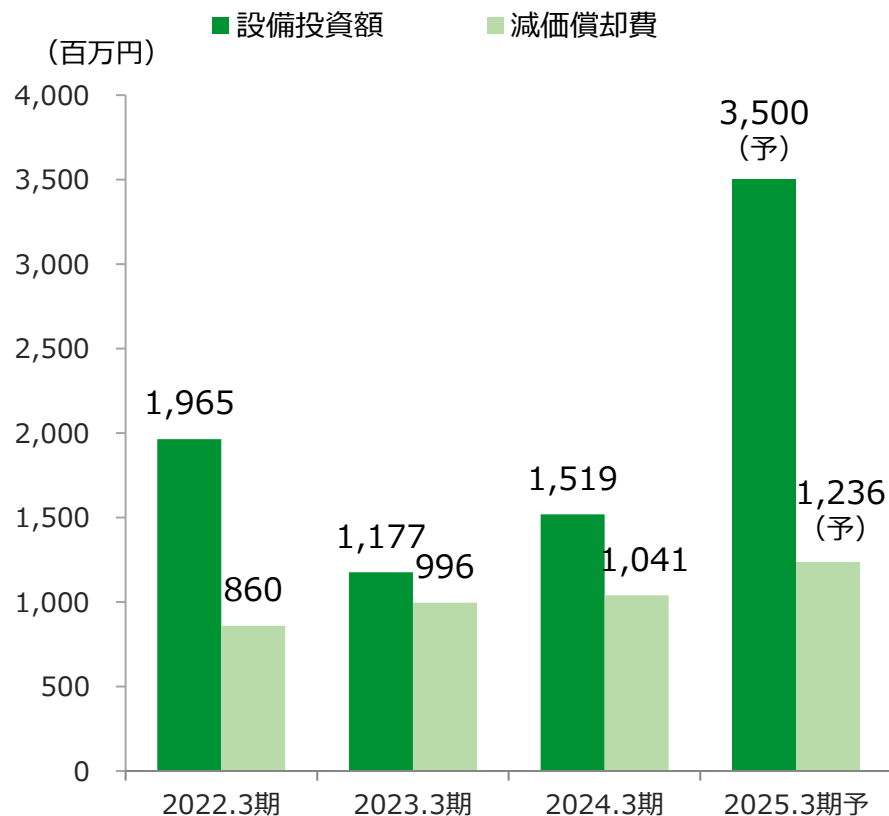
〈-〉 退職給付会計の基準変更により費用増加

〈+〉利益ヘプラス要因、〈-〉利益ヘマイナス要因

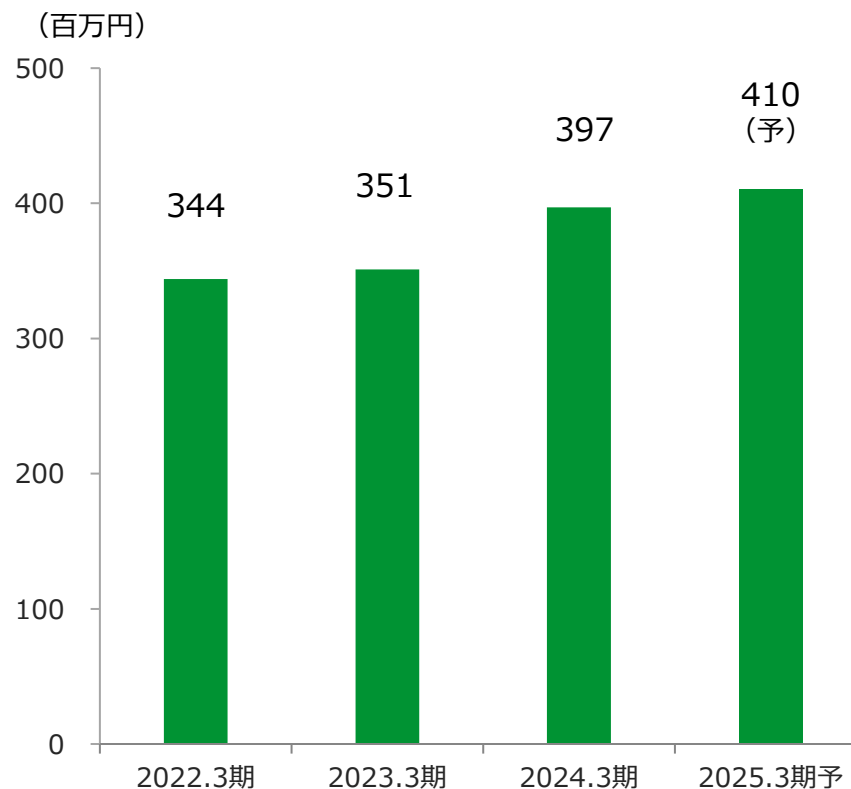
【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品

- サンワマテリアルソリューションズ株式会社の工場を北九州市に建設（2027年3月期完工予定）
- 半導体・電池・電子部品業界等の成長分野向け製品設備を中心に継続的な投資を実施

設備投資額・減価償却費



研究開発費

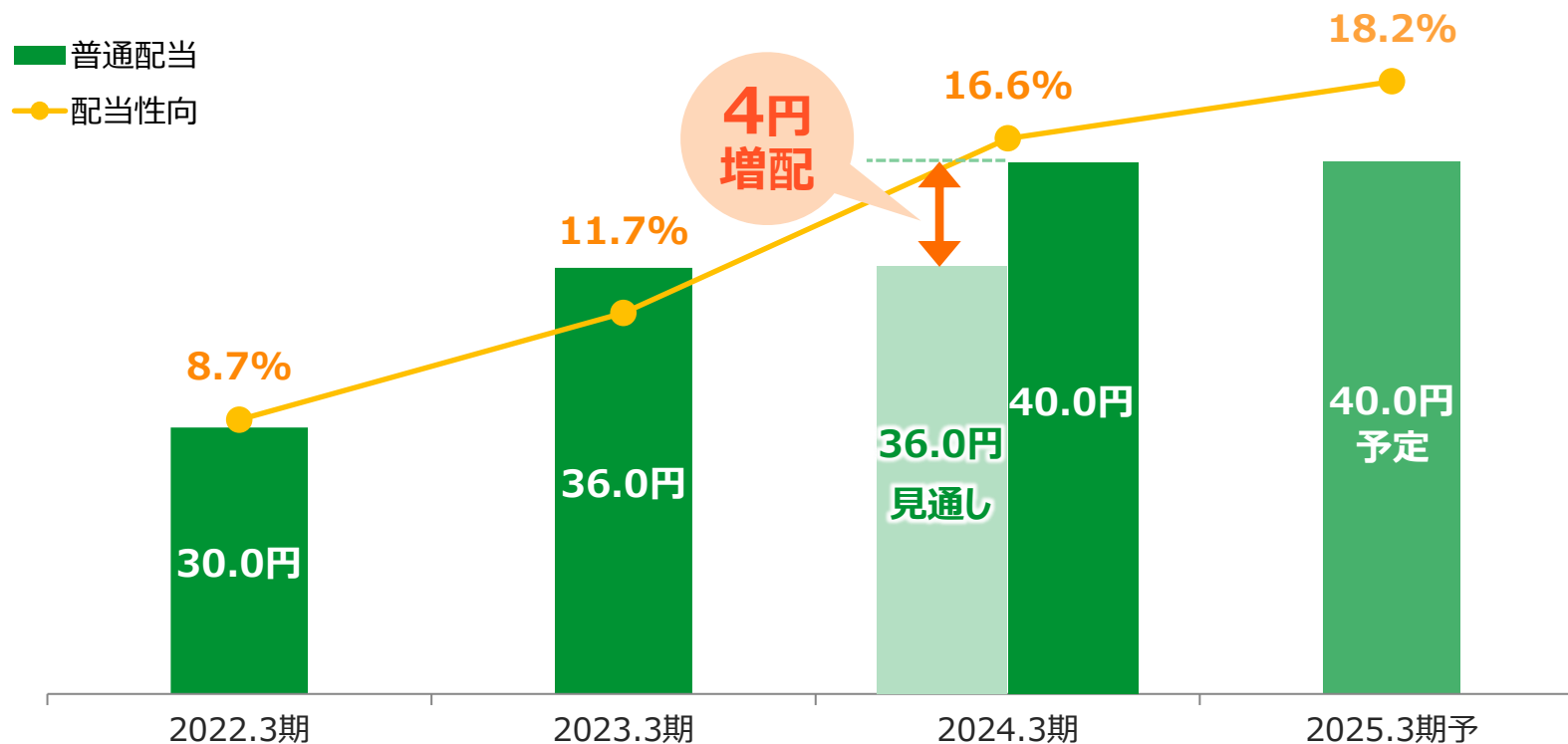


※減価償却費にはリース資産を含む

配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、
安定的な配当を継続して実施していきます

1株あたり配当金・配当性向



※2022.3期の1株あたり配当金30円につきましては、普通配当25円のほか記念配当5円を含んでおります。



中期経営計画



- 事業環境と当社グループの強みを踏まえて、経済的価値と社会的価値の向上を図る

事業環境

大企業を中心としたサステナブルニーズ

- 国内での資源循環、サーキュラーエコノミー
- 化石エネルギーからの転換、脱炭素
- 資源調達リスク等の課題解決

半導体・電池・電子部品のマーケット拡大

- 新たな工場建設への投資が加速
- 次世代自動車シフトによるサプライチェーン変化
- 微細化に伴う品質要求厳格化と再生材ニーズ

自社グループの強み

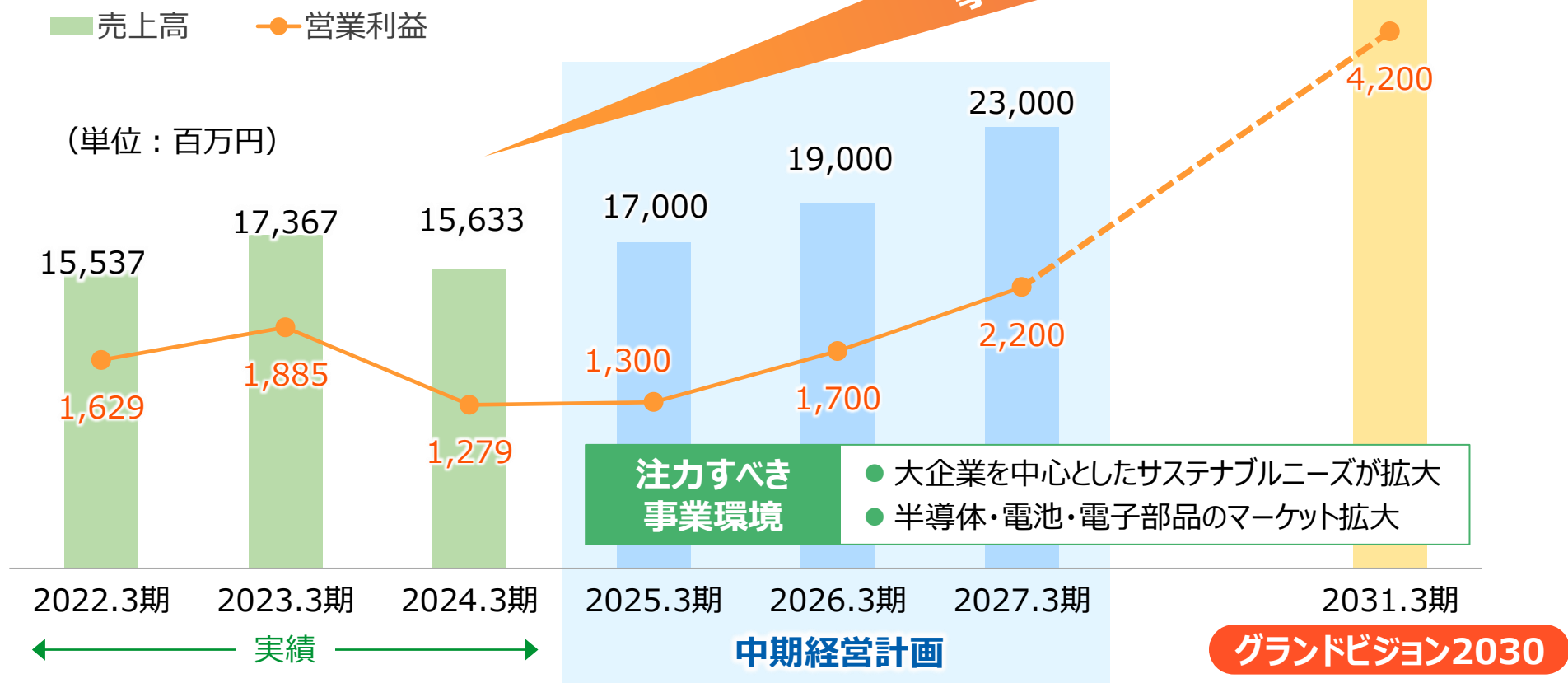
- ① 全国から様々な廃棄物を集める仕組みと特徴ある産廃許可を保有
- ② 輸入依存資源をマテリアルリサイクルできる高度な分離・精製技術を保有
- ③ リサイクル企業であり、メーカーである
- ④ 廃棄物から電子材料まで幅広い事業領域
- ⑤ 全国の優良企業との直需取引

⇒ 拡大するニーズ・マーケットに対し、世の中の役に立つ仕事を通じ
「社会から必要とされる環境リーディングカンパニー」を目指す

- 売上高 350億円 (2024年3月期比 : 2.2倍)
- 営業利益 42億円 (2024年3月期比 : 3.3倍)
- 営業利益率 12% (2024年3月期 : 8.2%)

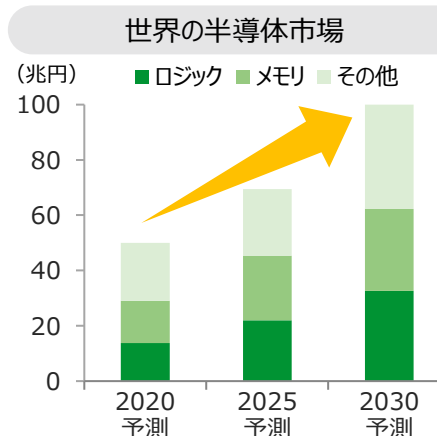
CAGR
(24.3期-31.3期)
12.2%

事業規模を倍増

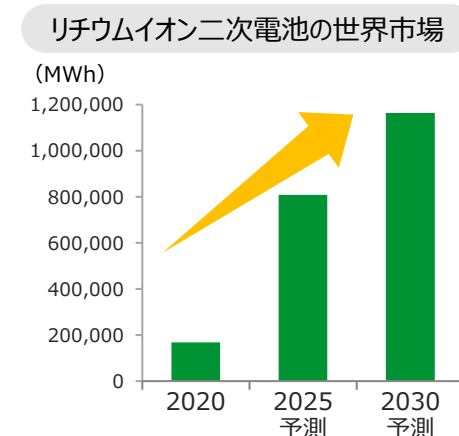


グランドビジョン2030

- グランドビジョン2030に向けた次期大型投資の準備
- 1案件あたり数十億円規模の投資を計画



出典：経済産業省「半導体戦略（概略）」
※縦軸は出荷額を表す



出典：矢野経済研究所発表「車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査」

本社地区で半導体・電池関連のキャパ増

- 中長期的に半導体・電池・電子部品のマーケットは確実に拡大
- 半導体微細化で、さらに品質厳格化が進む
- 現時点で再生材の利用は限定的だが、今後は前向き検討が進む
- 生産能力UPとともに、品質レベル向上が必要

⇒ **成長が期待できる業界に対し、さらなる設備増設と品質向上のための研究開発を積極的に進める**

業績目標

2027年3月期

売上高

23,000百万円

営業利益

2,200百万円

営業利益率

9.6%以上

EBITDA

3,800百万円

EBITDA：営業利益+減価償却費

グランドビジョン2030に向けた 中期経営計画の位置づけ

確実性の高い安定的な 事業成長・業績拡大

- 25/3期稼働の設備含め、設備稼働率向上
- 東西拠点を中心とした顧客開拓
- 本社地区での車載用電池関連リユース・リサイクル

グランドビジョン2030に向けた 大型投資の実施

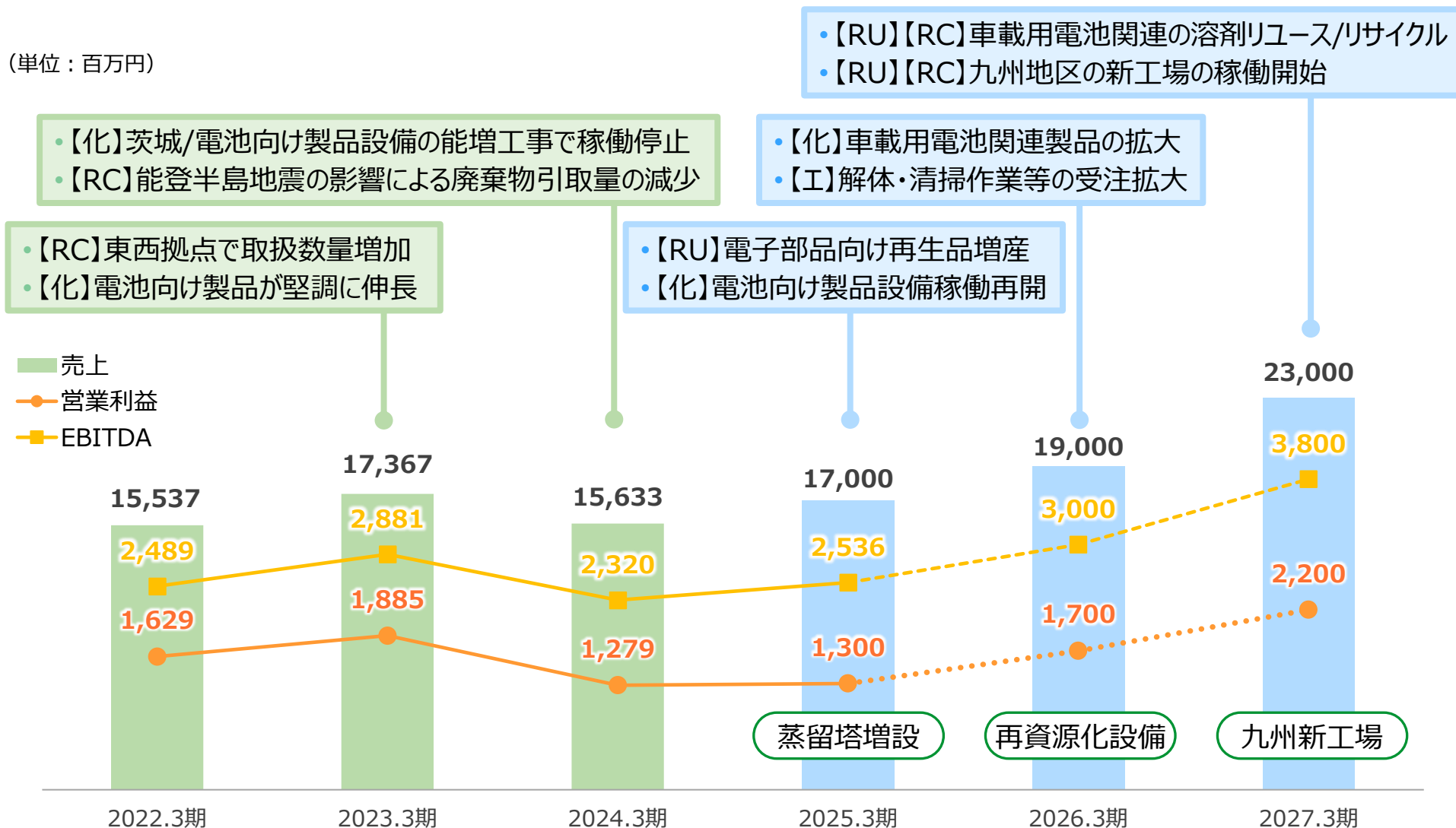
- 約60億円を投資し九州地区に新工場建設
(2027年3月期より稼働開始予定)
- 本社地区で半導体・電池関連のキャパ増

中期経営計画（2025年3月期～2027年3月期）

- 半導体・電池・電子部品業界向けの製品販売を中心に事業を拡大
- 能力増強のための設備投資も継続的に実施

【RU】リユース、【RC】リサイクル
【化】化学品、【工】エンジニアリング

(単位：百万円)



- グランドビジョン2030の実現に向け、約60億円を投資し九州地区に新工場建設
- 成長性の高い半導体業界の再資源化ニーズを取込む



外部環境

- 九州の半導体関連の設備投資に関する試算

半導体関連企業の設備投資額 **4,939億円**（2022年～2024年の平均）
1年あたりの投資額：約**5,000億円**

九州等の成長エリアにおけるリユース・リサイクル

- 九州地区は半導体関連の工場建設・投資が活況
- 有機/無機化学品の需要が増えていく見通し
- 半導体を中心とした動脈産業の大きな成長見通しに対し、廃棄物の再資源化を行う静脈産業※の体制は不十分

当社の役割

成長が期待できる地域での新工場建設

- 地産地消の再資源化を実施し、サーキュラーエコノミーの実現に貢献
- 資源調達リスクに対するBCP対応、製造業顧客のコスト低減、バリューチェーンにおけるCO2排出量の低減等にご貢献

※静脈産業：資源を加工して有用な財を生産する諸産業を動脈産業ということに対して、それらの産業が排出した不要物等を社会や資源循環過程に再投入するための事業を行っている産業

新会社設立の目的

九州地区で半導体関連を中心にものづくりが急速に増加
それに伴い化学材料が大量に消費されており、その原料の多くは輸入品



輸入依存度の高い化学材料を
国内で資源循環



三和油化工業株式会社

高い品質管理と再資源化の
ノウハウをもつリサイクルメーカー



エア・ウォーター・マテリアル

九州を基盤とする化学品販売で
長年の実績をもつ専門商社

合併会社設立

サンワマテリアルソリューションズ株式会社

会社名称	サンワマテリアルソリューションズ株式会社
本社所在地	北九州市戸畑区牧山5丁目（AGC(株)北九州事業所内）
代表者	代表取締役社長 山本浩貴（やまもと ひろき）
事業内容	●産業廃棄物の処理、再資源化 ●工業用薬品全般についての製造、販売
資本金	450百万円（資本準備金225百万円含む）
出資比率	●三和油化工業（株）65% ●エア・ウォーター・マテリアル（株）35%
設立年月日	2024年6月（予定）
新会社への投資額	約60億円（予定）
従業員数	約20名（2026年予定）

今後の社会に必須となる化学材料をマテリアルリサイクルする事業を北九州市にて推進してまいります

輸入に依存する化学材料の国内循環を北九州市にて実施

2024年4月26日 当社、エア・ウォーター・マテリアル社、北九州市の3者で立地協定を締結

立地協定締結式



- (左) 当社 代表取締役社長 柳 均
- (中央) 北九州市長 武内 和久 様
- (右) エア・ウォーター・マテリアル社 代表取締役社長 衛藤 昌彦 様



所在地 北九州市戸畑区牧山5丁目 (AGC株式会社 北九州事業所内)

工場外観(予想図)

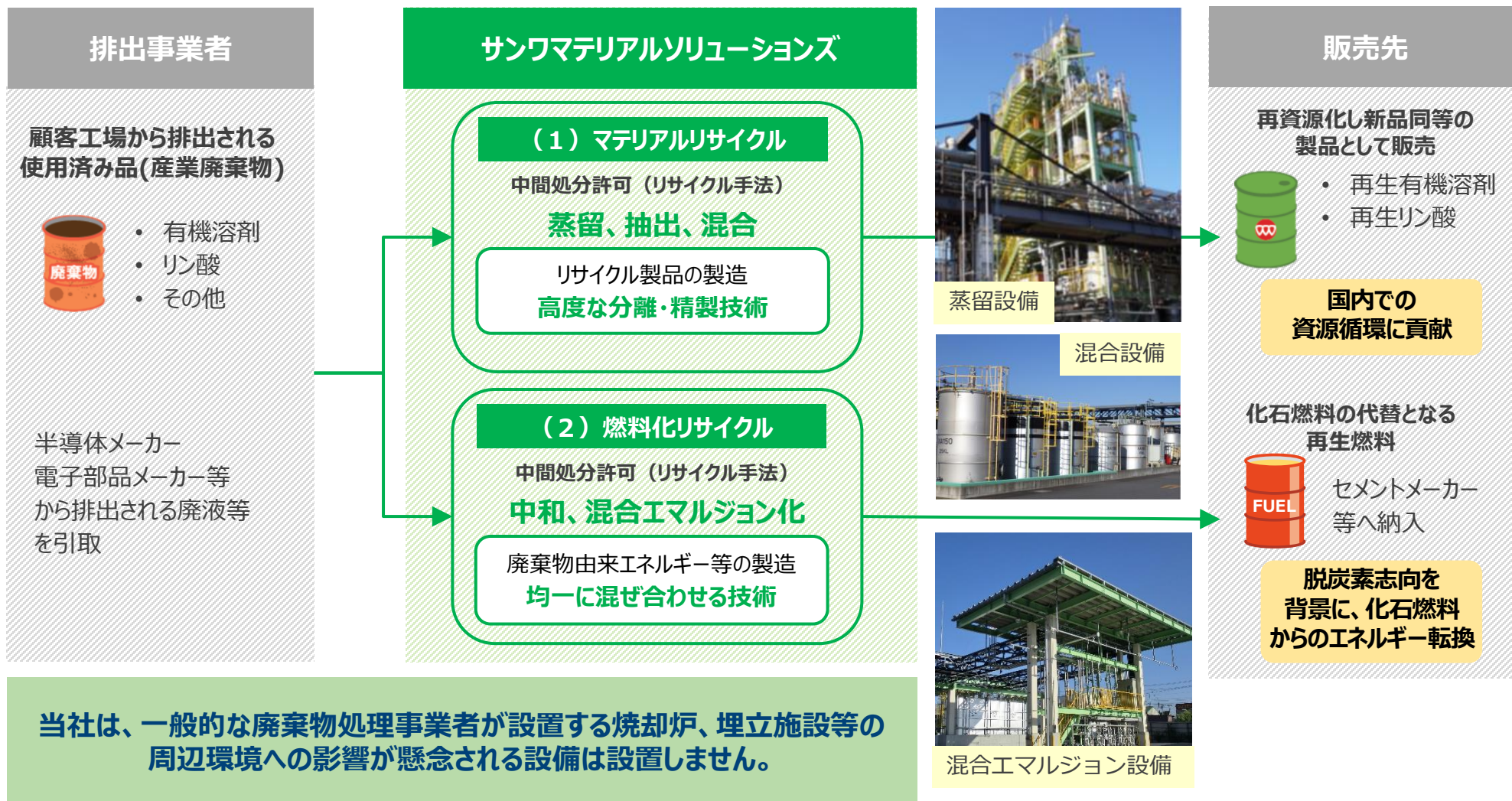


■ 工事期間 (予定)

- 着工 2025年初頭
- 完工 2026年春
- 稼働開始 2026年中

↑
バースを活用した
船舶輸送も実施する予定

- 九州エリアを中心に成長が見込まれる**半導体関連企業等の産業廃棄物をマテリアルリサイクル**
- マテリアルリサイクルと燃料化リサイクルの2段階構えで、**サステナブル社会の実現に貢献**

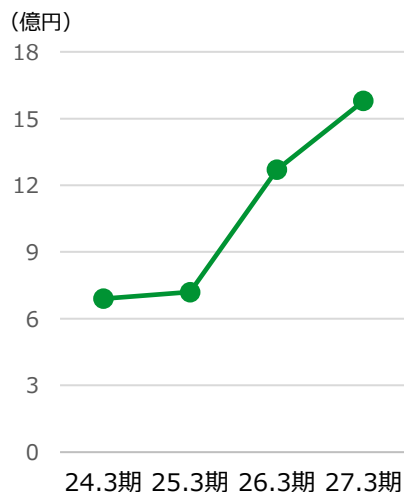


① 半導体業界向け売上見込

半導体業界の成長に伴う旺盛な需要に対応
高純度溶剤販売で化学品事業を拡大

- 段階的に**設備投資を実施し、生産能力を増強**
 - ・2024年度：本社工場に蒸留塔増設
 - ・2026年度：九州地区新工場に蒸留塔新設
 ⇒高まる需要に応えることで販売を拡大
- 微細化に伴う**要求品質の高度化及び水平リサイクル**に対応する研究開発の強化

半導体業界向け売上見込



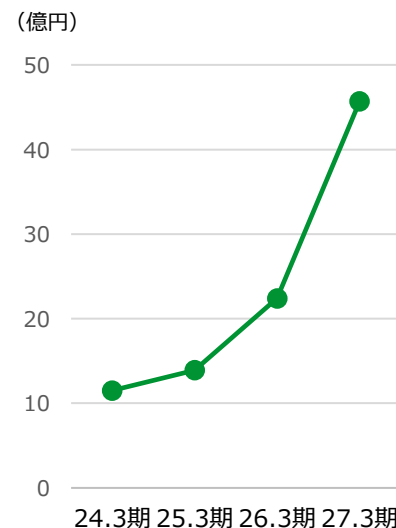
▲本社工場蒸留塔

② 電池業界向け売上見込

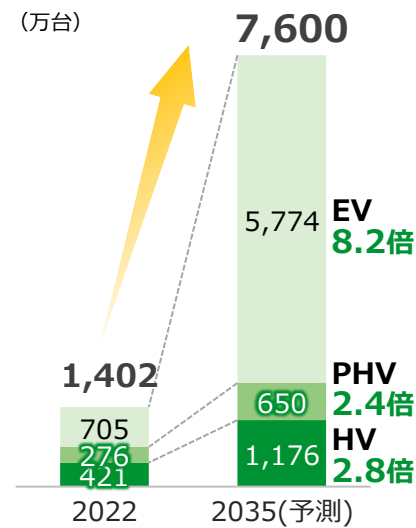
電池向け機能材（バインダー）の販売を拡大
溶剤販売及び再生で化学品・リユース事業を拡大

- **中部地区を中心に次世代自動車の生産が増大**
⇒電池向け製品の販売が拡大
- 欧州バッテリー規則等による環境規制の強化
(リサイクル材の利用率向上及びCO2低減要求)
⇒再生品販売の拡大

電池業界向け売上見込



HV・PHV・EVの世界市場
(乗用車・新車販売台数)



出典：富士経済「HV・PHV・EVの世界市場を調査（2023年7月20日）」

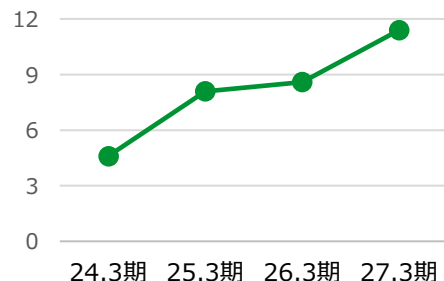
③ 電子部品業界向け売上見込

収集運搬・分析・再生・品質保証まで
当社グループによる**トータルコーディネート**

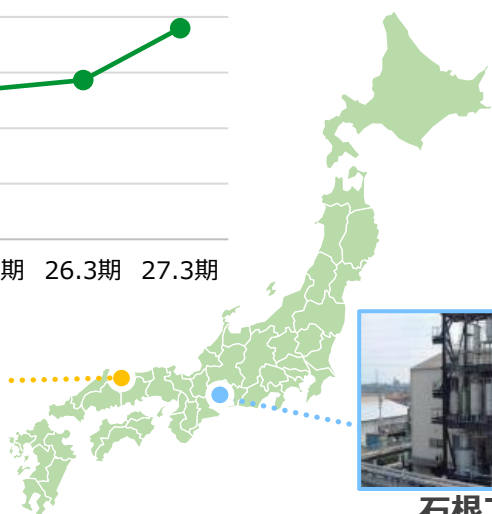
- 電子部品の製造工程で排出される溶剤廃液を再生
- 受託再生、製品販売で売上を拡大
- アライアンス先含め複数拠点にて対応し**地産地消**
(**運送コスト低減、運送時CO2排出抑制**)

電子部品業界向け売上見込

(億円)



アライアンス先
蒸留再生設備



石根工場
蒸留再生設備

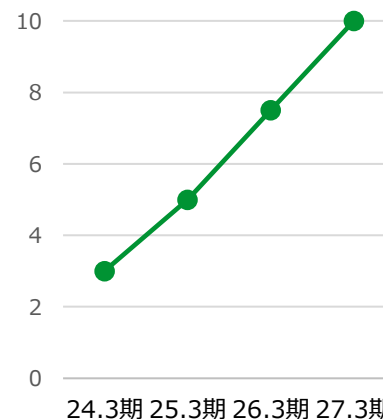
④ 解体・作業等の売上見込

特定建設業許可による**解体から化学物質取扱の
プロとして清掃作業・再資源化まで一手に引受**

- 他事業で培ってきた石油・化学関連企業との強固な
関係性を活かし、プラント改廃ニーズに応え受注
- 人材確保及び協力会社を増やし多様なニーズに応
えることのできる体制整備
- 解体前のアスベスト調査等もグループ会社の機能で
分析を実施

解体・作業等の売上見込

(億円)



グループの機能

三和油化工業
廃棄物再資源化
解体・清掃作業等

サンワリユーツー
廃棄物収集運搬
清掃作業等

サンワ分析センター
アスベスト分析等

成長分野に対しての中期売上見込

- 半導体・電池・電子部品業界向け売上および解体・清掃作業等の売上を軸に拡大
- アライアンス体制の構築や継続的な設備投資により拡大するニーズに対応

◆ 中期経営計画と成長分野における売上見込 (主要な取引先・製品の集計)

当事業分類		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	
中期経営計画		156億円	170億円	190億円	230億円	
		+14億円		+20億円		
				+40億円		
①	半導体	6.9億円	7.2億円	12.7億円	15.8億円	
②	電池	リユース・化学品	11.5億円	13.9億円	22.4億円	45.7億円
③	電子部品		4.6億円	8.1億円	8.6億円	11.4億円
①-③	引取廃棄物の再資源化分	リユース・リサイクル	14.7億円	16.7億円	18.7億円	22.6億円
④	解体・清掃作業等	エンジニアリング	3.0億円	4.9億円	7.5億円	10億円
①-④ 上記成長分野の合計		40.7億円	50.8億円	69.9億円	105.5億円	
		+10.1億円		+19.1億円		
				+35.6億円		

① リサイクルメーカーとしてサステナブルを推進

- ・サステナブルを推進する技術の強化
- ・対応能力の拡充
- ・サーキュラーエコノミーの推進



③ 新事業の創出

- ・エンジニアリング事業による解体作業対応
- ・農業事業の事業体制整備
- ・金属事業の拡充



② 成長市場への注力

- ・半導体/電池/電子部品市場への原料供給・リサイクルニーズ対応
- ・ESGニーズへの対応



持続的な成長戦略



④ 生産性向上、働きがいの醸成

- ・ROIC経営の推進
- ・人的資本の強化
- ・スキル人材の育成
- ・DX投資



成長のための基盤づくり

⑤ ESG対応により企業価値向上

- ・非財務情報の強化
- ・働きやすい環境の整備
- ・理念、思いの共有



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。